

茨城県立伊奈学校 年間指導計画（国語科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようにするための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（知識及び技能） ○生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯ににわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
科目名		単位数	課程・学科・学年			使用教科書名（出版社）		
実用国語		2	全日制・普通科・3学年			パスポート国語必修（桐原書店）		
科目の目標		○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりし、表現することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯ににわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
時期 月週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4・5月	小論文Ⅰ	書くこと	10	① 知識・技能 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けができる。 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 語句の意味や文法の特徴を正しく理解しようとし、表現を工夫して分かりやすい文章を書こうとしている。	記述の点検（ノート） 記述の点検（ノート） 記述の確認（振り返りシート）	○小論文は根拠に支えられた意見を述べるものであることを理解し、具体的なトレーニングを通して意見と根拠を短文で書く。 ○文章執筆のための設計図としての「構成ノート」を理解し、実際に作成してみることで小論文執筆の準備の仕方を学 ぶ。	○自分自身のことや自己の将来などを題材に、自分の思いや考えを書く活動。	総合的な探求の時間
6・7月	小論文Ⅱ	書くこと	20	① 知識・技能 目的に応じて、表記、文体、用字など整った文を書くために必要な知識が身についている。 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、資料から読み取ったことをふまえて、自分の意見を明確にして文章を書く。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 根拠に支えられた意見提示や、是非が論じられる問題提起をしようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の点検（ノート） 記述の確認（振り返りシート）	○テーマ型、課題文型、資料型小論文の特徴を知り、「問い」と「答え」と「根拠」に着目しながら実際に執筆する。 ○小論文の課題例一覧から任意の論題を選び、実際に小論文を書く。	○社会的な問題に対する自分の思いや考えを書く活 動。	総合的な探求の時間 公民科「公 共」「公共の扉」との関連
9・10月	会話・議論・発表	話すこと・聞くこと	20	① 知識・技能 スピーチ、ディベート、プレゼンテーション、面接など、さまざまな場面にに応じて効果的な言葉使いや話し方を身につけている。 ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」に関して、目的や場面にに応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う力を検討している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 話の構成や表現、発声の仕方などを工夫し、相手に伝えようとしている。	記述の点検（ノート） 発表の観察（スピーチ、ディベート、プレゼンテーション） 記述の確認（振り返りシート）	○他者の興味・関心をテーマを設定し、伝え方を工夫しながらスピーチする。 ○ディベートの流れとルールを理解し、ディベートを実践する。 ○総合的な音声言語表現であるプレゼンテーションの表現要素、評価の観点、情報の視覚化の方法を学ぶ。	○聴衆に対してスピーチをしたり、面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりする活 動。 ○議論や討論を行い、その記録を基に話し合いの仕方や結論の出し方について批評する活動。 ○設定した題材について調べたことを、発表資料にまとめ、聴衆に対して説明す	情報科「コミュニケーションと情報デザイン」との関連
11・12月	実用的な文章	書くこと	15	① 知識・技能 通信文や企画書など、実用的な文章の書き方の決まりを理解している。 ② 思考・判断・表現 「書くこと」に関して、伝えることを簡潔にまとめ、目的に合わせた文書を作成することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 目的に応じて色々な文書の形態があることを理解しようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の点検（ノート） 記述の確認（振り返りシート）	○伝統的な手紙の形式を学 び、場面に応じたことばの意味について理解を深める。 ○相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	○通信文や企画書など、目的や読み手に応じて書く活動。	情報科「コミュニケーションと情報デザイン」との関連
1月	創作的な文章	読むこと	5	① 知識・技能 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」に関して、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、文体の特徴や効果について考察している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 さまざまな文章を読み、文章の面白さを見つけようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の点検（ノート） 記述の確認（振り返りシート）	○他者を楽しませる文章の特性を知る。 ○エッセイや小説、詩を読み、文章の魅力と効果的な手法を見つける。	○さまざまな文章を読み、比較し、批評する活動。	外国語科「読むこと」の領域との関連
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		20					
	書くこと		45					
	読むこと		5					
指導時間数の合計			70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（国語科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（知識及び技能） ○生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。（思考力、判断力、表現力） ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	2	全日制・普通科・3学年	『論理国語』（数研出版）

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月 2週 ～3週	文化の認識	B読むこと	5	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔1)ア〕	記述の点検（ノート）	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。	本文にあげられている具体例について、任意に組み合わせさせてそれらの共通点と相違点をまとめ、グループ内で発表する。	「いき」の美学
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕	記述の点検（ノート）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認（振り返りシート）			
4月4週 ～5月2週	文化の認識	B読むこと	5	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔1)ア〕	記述の点検（ノート）	・「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	宗教的な行為でありながら「特にその由来を考えることなく、長年の生活習慣として行っている多くの行為」には、どのような事例があるか。本文であげられているもの以外で、日本のもの、外国のもの、それぞれ話し合う。	「『文化が違う』とは何を意味するのか？」 ・横断的な視点 現代社会「宗教について考えよう」
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕	記述の点検（ノート）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認（振り返りシート）			
5月3週 ～6月1週	文化の認識／	B読むこと	6	① 知識・技能 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	記述の点検（ノート）	・「無意識のバイアス」の内容を理解し、筆者が述べる問題点を踏まえたうえで、具体例をあげて論述する。 ・「政治」に関する二つの文章を関連づけて読み、自分の意見を述べる。	「無意識のバイアス」とあるが、自分の回りにある「無意識のバイアス」の具体例をあげ、それらについてどのように向き合うべきか、話し合う。	「学問の政治性」
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	記述の点検（ノート）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認（振り返りシート）			
6月2週 ～7月2週	社会の枠組み	B読むこと	7	① 知識・技能 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 推論の仕方について理解を深め使っている。	記述の点検（ノート）	・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えをとらえる。 ・文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。	筆者は民主主義について私たちにどのようなことを投げかけているか、話し合う。	「『である』ことと『する』こと」 ・横断的な視点 現代社会 「民主社会の原理と日本国憲法」
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	記述の点検（ノート）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認（振り返りシート）			

7月 2週 ～ 7月 3週	社会の枠組み	A書く こと	6	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 資料図と資料文の内容と意見文とを積極的に比較検討し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。	「労働は一人の人間が社会的人格としてのアイデンティティを承認されるための必須条件なのである」という筆者の主張を、わかりやすく説明してみよう。	「人はなぜ働かなくてはならないのか」
9月 1週 ～ 9月 3週	情報と知性	B読む こと	6	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・筆者の主張を踏まえて、「弱い人工知能」とは何か考察する。 ・「『生命』の発展にとって必要な技術」について説明する。	「『生命』の発展にとって必要な技術」として、例えば「弱い人工知能」なら、どのようなものが考えられるか、具体例をあげて説明する。	「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」
9月 3週 ～ 10月 1週	情報と知性	B読む こと	6	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に適切な実例を考え、学習課題に沿って話し合おうとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・「物語」と「情報」の対比構造を読み取り、「テロル」としての「メディア」の具体的な内容をとらえる。 ・情報を発信・受信するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、その有効性や問題点を話し合う。	「メディアのテロル」を実感したような事例をあげ、メディアを上手く利用する方法や利用する上での注意点を話し合う。	「メディアのテロル」 ・横断的な視点 現代社会「情報化の進展」
10月 2週 ～ 10月 4週	情報と知性	B読む こと	6	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って二つの文章の共通点や相違点を整理し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・「図書館」について書かれた二つの文章の内容について、共通点と相違点を読み取る。 ・文章内容を踏まえて「図書館のあり方」について考察し、自分の考えをまとめる。	二つの文を読み、図書館のあり方に関して、それぞれの筆者の主張の異なる点について比較し、それをもとに自分の考えをまとめてみよう。	【探究の扉】人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「もの」がたり」
11月 1週 ～ 11月 3週	環境と人間	B読む こと	6	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ・意志と選択を混同している例を具体的に考える。	「『意志』という語を用いる際、我々自身がしばしば陥る混乱」とあるが、「選択」を「意志」ととらえている具体例が身近にないか考えて、説明する。	「意志と選択」
11月 4週 ～ 12月 2週	環境と人間	B読む こと	6	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に調べ学習に取り組み、学習課題に沿って話し合おうとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的概念の内容を読み取る。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合う。	「物心二元論」の起源や考え方について調べてまとめる。	「環境と心の問題」 ・横断的な視点 現代社会「人間の活動と環境問題」
12月 2週 ～ 12月 3週	思索の深化	B読む こと	6	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 筆者の主張を的確に理解したうえで積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って条件に即した形で説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の点検 (ノート) 記述の確認 (振り返りシート)	・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	「『わたしの内部』つまりわたしの『誰』が、顔によって可能となる、顔によって存在し始める」とはどういうことか、グループ内で説明する。	「顔の所有」

1月 2週 ～ 1月 3週	表現編	A書く こと	6	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	記述の点検 (ノート)	・自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示す。 ・報告書に適切な表現の仕方で書く。 ・わかりやすくなるよう文章構成を工夫したり、簡潔で正確な表現を用いたりする。	できあがった報告書を用いて、プレゼンテーションを行う。	「報告書を書く」
				② 思考・判断・表現 「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	記述の点検 (ノート)			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 調査内容の整理とともに課題を粘り強く検討し、報告書の形式に沿って調査結果を明確に示そうとしている。	記述の確認 (振り返りシート)			
1月 3週 ～ 1月 4週	表現編	A書く こと	4	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	記述の点検 (ノート)	・文章の筆者の意図をとらえ、批評する。 ・文章の組立てや進め方を工夫して書く。 ・自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにする。 ・相互評価がもつ機能を認識し、自分の表現を改善する。	お互いの小論文を交換して読み合い、よくできた点などについて話し合う。	「小論文を書く」
				② 思考・判断・表現 「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。	記述の点検 (ノート)			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 読み手を意識した構成・展開を積極的に考え、学習課題に沿って説得力のある文章を書こうとしている。	記述の確認 (振り返りシート)			
領域 ごとの 計指導 時間数 の	話すこと・聞くこと							
	書くこと		16					
	読むこと		59					
指導時間数の合計			75					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（国語科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(知識及び技能) ○生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。(思考力、判断力、表現力) ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
文学国語	1	全日制・普通科・3学年(文系)	文学国語(数研出版)

科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	平成の小説	読む	4	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私」は幹生の「目」をどのようにとらえていたか、その変化をまとめる。 ・「私」はどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえてまとめる。 ・本文中から「手」の描写を抜き出し、それぞれの場面での「私」の心情を説明する。	情景描写に表れる主人公の心情を説明する。	「ひよこの眼」山田詠美 公共「公共の扉」との関連
5月				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕				
6月				③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。				
7月	昭和中期の小説	読む	4	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「人生のクリーム」とは、どのようなものかを考える。 ・「ぼく」が「何も思わず何も考えず、ただ目を閉じてやり過ぎていくしかないんじゃないか」との考えに至ったのはなぜかを説明する。 ・「中心がいくつもあって、しかも外周を持たない円」とは、どのようなものかを話し合う。	抽象的な表現に込められた意味を話し合う。	「クリーム」村上春樹 公共「公共の扉」との関連
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕				
9月	大正の小説	書く	4	③ 主体的に学習に取り組む態度 作品に込められた寓意を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 ・「だが、家が出て来ても、今度は帰ってゆくおれがいない」とは、どういうことかを考える。 ・この作品に込められた寓意は、どのようなものかを話し合う。	作品に込められた寓意について話し合う。	「赤い繭」安部公房 公共「公共の扉」との関連
				① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕				
10月	大正の小説 探究の扉 読み比べ	読む	2	② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 ・「二銭や三銭のもの」といって贅沢なもの。美しいものといって無気力な私の触角にむしろ媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだ」とは、どういうことかを説明する。 ・「第二のアイディア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。 ・心の不可思議さについて、自分が経験したことを八百字程度で書く。	作品内容を踏まえて、心の不可思議さについて経験したことを文章にまとめる。	「檸檬」梶井基次郎 公共「公共の扉」との関連
				③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。				
10月	大正の小説 探究の扉 読み比べ	読む	2	① 知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・『瀨山の話』には、「私」の話を書く手が存在している。このことによって、『檸檬』の読まれ方とはどのような違いが生じるかを考える。	作品構成が読者に与える印象の違いを考察する。	探究の扉 「瀨山の話」 日本史探究「近現代の地域・日本と世界」の関連
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。〔B(1)オ〕				
10月	大正の小説 探究の扉 読み比べ	読む	2	③ 主体的に学習に取り組む態度 完成稿と草稿の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・『瀨山の話』には、「私」の話を書く手が存在している。このことによって、『檸檬』の読まれ方とはどのような違いが生じるかを考える。	作品構成が読者に与える印象の違いを考察する。	探究の扉 「瀨山の話」 日本史探究「近現代の地域・日本と世界」の関連
				① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕				

11月	明治の小説	読む	6	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。	同じ作者の他作品に登場する人物と比較し、それぞれの人物像をまとめる。	「舞姫」 森鷗外
12月				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕				日本史探究 「近現代の地域・日本と世界」の関連
	③ 主体的に学習に取り組む態度 『舞姫』と『普請中』の登場人物の人物像を粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。							
1月	海外の小説	書く	5	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔1ア〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・藤野先生が「私」に行った指導についてまとめる。 ・「この時この場所で私の考えは変わった」の「この時この場所」は、具体的にどの時・どの場所を指すかを考える。 ・「私」の考えは、何によってどのように変わったのかを考える。 ・現在の「私」にとって、藤野先生はどのような存在かを説明する。 ・藤野先生は「私」にどのような思いをいただいていたと考えられるか、自分の意見を発表する。	登場人物の主人公に対する心情を考察し、発表する。	「藤野先生」 魯迅
2月				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕				日本史探究 「近現代の地域・日本と世界」の関連
	③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って意見を発表しようとしている。							
3月	戯曲	読む	5	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・登場人物や読者は、「父」についてどのような情報を持っているかを整理する。 ・「父」が家出をしてからの家族の生活状況はどのようなものであったかを整理する。 ・この作品の結末部について、どのような感想を持ったかを話し合う。	作品の結末に対する感想を話し合う。	「父帰る」 菊池寛
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕				日本史探究 「近現代の地域・日本と世界」の関連
	③ 主体的に学習に取り組む態度 考えを整理して作品の結末部に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	公共「公共の扉」との関連						
指導領域ごと 数 の 計	書くこと		9					
	読むこと		26					
指導時間数の合計			35					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（国語科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）			
古典探究		3	全日制・普通科・3学年（文系）		高等学校 古典探究（数研出版）			
科目の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	随筆	読む	7	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の分析（ペーパーテスト） 記述の確認（振り返りシート）	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・作者は中宮定子をどのような人物だと感じたか。説明する。 ・「葛城の神もしばし」という定子の発言の意図を考える。 ・周囲の女房たちはこの頃の清少納言をどのように見ていたか、本文をもとに話し合う。	・登場人物の行動や心情を説明する。 ・同一エピソードを描いた二つの文章の違いを整理し、考察する。	『枕草子』 「二月つごもりごろに」 「宮に初めて参りたるころ」 『古本説話集』 「清少納言がこと」 【古文チェックポイント4】二種類の用法を持つ敬語
5月	日記文学	読む	13	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の分析（ペーパーテスト） 記述の確認（振り返りシート）	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくろひて書きて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。 ・和泉式部・赤染衛門・清少納言について、作者はそれぞれどのような人物であるとしているか、まとめる。	・作者の心情について話し合う。 ・本文の内容について説明する。	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」 『紫式部日記』 「同僚女房評」 【ズームアップ】日記文学の展開
6月	小説	読む	12	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 宋定伯の知恵が読み取れる言動について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の分析（ペーパーテスト） 記述の確認（振り返りシート）	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。 ・「ズームアップ 義訓と振り仮名」の本文を踏まえて、日本で古くから漢字を利用した日本語表現が工夫されてきた経緯を学習する。	・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理して文章にまとめる。 ・本文中の漢詩にあらわされた崔護の心情を考察して話し合う。 ・日本語における「振り仮名」を活用した修辭の用例を調べて発表する。	『搜神記』 「売鬼」 『本事記』 「人面桃花」 【比べ読み】 義訓と振り仮名
7月	物語	読む	10	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く引き歌の効果について考察し、今までの学習を生かして調べたことをまとめようとしている。	記述の点検（ノート） 記述の分析（ペーパーテスト） 記述の確認（振り返りシート）	・本文中から、光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を説明する。 ・「笹の隈にだにあらねばにや……」について、『古今和歌集』神遊びの歌の引用がどのような効果を与えているか、調べてまとめる。 ・光源氏と従者とが詠み交わす四首の歌をそれぞれ現代語訳し、四首に共通する心情を説明する。 ・白居易の詩の引用が、それぞれどのような意味を与えているか、調べてまとめる。	・引き歌の効果について考察する。 ・漢詩の引用の効果について考察する。	『源氏物語』 「車争ひ」 「須磨」 【ズームアップ】『源氏物語』以降の物語

9月	史伝	読む	13	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 廉頗と蘭相如がお互いに対してどのような態度をとったかについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の分析 (ペーパーテスト) 記述の確認 (振り返りシート)	・蘭相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し蘭相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・荆軻が秦の宮殿で秦王に献上したものは何か、まとめる。 ・秦王は荆軻の最初の一撃を免れたのに、なぜ殺されそうになったのか、理由をまとめる。	・廉頗と蘭相如がお互いに対してどのような態度をとったか、まとめて発表する。 ・秦王は荆軻の最初の一撃を免れたのに、なぜ殺されそうになったのか、理由をまとめて発表する。	『史記』『廉頗・蘭相如壁を趙に帰さしむ』『荆軻 図窮まりて七首見る』 【ズームアップ】司馬遷と『史記』
10月	説話	読む	15	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に編者の考えをとらえ、今までの学習を生かして説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の分析 (ペーパーテスト) 記述の確認 (振り返りシート)	・本文で菅原道真はどのような人物として描かれているか説明する。 ・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。 ・本文と『唐物語』『王昭君』を読み比べて、相違点をあげる。 ・『西京雑記』と『唐物語』の記述の特徴について話し合う。	・登場人物の人物像について説明する。 ・編者の考えを説明する。 ・同一エピソードを描いた二つの文章の違いを整理し、記述の特徴を話し合う。	『古今著聞集』『菅原道真』『唐物語』『王昭君』 【比べ読み】『西京雑記』『王昭君』
11月	評論	読む	13	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く本文の内容を読み解き、学習課題に沿って筆者の主張を説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の分析 (ペーパーテスト) 記述の確認 (振り返りシート)	・筆者は、すばらしい歌を作るためにはどうしたらよいと言っているか、説明する。 ・筆者は、「本歌」の扱い方についてどのように考えているか、説明する。 ・「秘事といふことの大用」をどのように考えているのか説明する。 ・「弓矢の道」の話は、何をどのようにたとえているのか説明する。	・筆者の考えを説明する。	『近代秀歌』『本歌取り』『風姿花伝』『秘すれば花』 【ズームアップ】中世の和歌
12月	文章	読む	10	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 韓愈の考える「師」とはどのような人かについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の分析 (ペーパーテスト) 記述の確認 (振り返りシート)	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・「子を愛する親」「巫医・楽師・百工などの専門技術者」「孔子（聖人）」らについて、それぞれの「師」に対する考え方を整理する。 ・韓愈の考える「師」とはどのような人か、説明する。	・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか、動機を考えて文章にまとめる。 ・韓愈の考える「師」とはどのような人か、話し合う。	『捕蛇者説』『師説』 【比べ読み】漢文と日本文学
1月	近世随筆 近世小説	読む	12	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえて内容を整理し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の点検 (ノート) 記述の分析 (ペーパーテスト) 記述の確認 (振り返りシート)	・筆者は「わが師の心」をどのように受け取っているか、まとめる。 ・筆者は「学問の道」をどのように理解し、どのように対するのがよいと考えているか、まとめる。 ・「逢ふを待つ間に……恨みなるべし」や「さりともと……」の歌に込められた宮木の心情を考える。 ・勝四郎の心情の変化をまとめる。	・筆者の考えを説明する。 ・登場人物の行動や心情を説明する。	『玉勝間』『師の説になづまざること』『雨月物語』『浅茅が宿』 【ズームアップ】近世の出版文化
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		0					
	読むこと		105					
指導時間数の合計			105					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（国語科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）			
古典探究		1	全日制・普通科・3学年（理系）		高等学校 古典探究（数研出版）			
科目の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能） ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	随筆	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	記述の点検 （ノート）	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・「二月つごもりごろに」と本文を比較し、違いを整理する。	・登場人物の行動や心情を説明する。 ・同一エピソードを描いた二つの文章の違いを整理し、考察する。	『枕草子』 「二月つごもりごろに」 （芥川龍之介） 『古本説話集』 「清少納言がこと」 【古文チェックポイント4】二種類の用法を持つ敬語
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 （ペーパーテスト）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認 （振り返りシート）			
5月	日記文学	読む	5	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	記述の点検 （ノート）	・和泉式部・赤染衛門・清少納言について、作者はそれぞれどのような人物であるとしているか、まとめる。	・本文の内容について説明する。	『紫式部日記』 「同僚女房評」 【ズームアップ】日記文学の展開
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 （ペーパーテスト）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認 （振り返りシート）			
6月	小説	読む	4	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	記述の点検 （ノート）	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・「ズームアップ 義訓と振り仮名」の本文を踏まえて、日本で古くから漢字を利用した日本語表現が工夫されてきた経緯を学習する。	・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理して文章にまとめる。 ・日本語における「振り仮名」を活用した修辞の用例を調べて発表する。	『搜神記』 「売鬼」 【比べ読み】 義訓と振り仮名
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 （ペーパーテスト）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 宋定伯の知恵が読み取れる言動について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の確認 （振り返りシート）			
7月	物語	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	記述の点検 （ノート）	・本文中から、光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を説明する。 ・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・「笹の隈にだにあらねばにや……」について、『古今和歌集』神遊びの歌の引用がどのような効果を与えているか、調べてまとめる。	・引き歌の効果について考察する。	『源氏物語』 「車争ひ」 【ズームアップ】『源氏物語』以降の物語
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕	記述の分析 （ペーパーテスト）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く引き歌の効果について考察し、今までの学習を生かして調べたことをまとめようとしている。	記述の確認 （振り返りシート）			
9月	史伝	読む	4	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕	記述の点検 （ノート）	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	・廉頗と藺相如がお互いに対してどのような態度をとったか、まとめて発表する。	『史記』 「廉頗・藺相如」 壁を趙に帰さしむ 【ズームアップ】司馬遷と『史記』
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 （ペーパーテスト）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 廉頗と藺相如がお互いに対してどのような態度をとったかについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の確認 （振り返りシート）			

10月	説話	読む	5	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕	記述の点検 (ノート)	・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。 ・本文と『唐物語』『王昭君』を読み比べて、相違点をあげる。 ・『西京雜記』と『唐物語』の記述の特徴について話し合う。	・編者の考えを説明する。 ・同一エピソードを描いた二つの文章の違いを整理し、記述の特徴を話し合う。	『唐物語』 「王昭君」 【比べ読み】 『西京雜記』 「王昭君」
11月	評論	読む	4	② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 (ペーパーテスト)	・「秘事といふことの大用」をどのように考えているのか説明する。 ・「弓矢の道」の話は、何をどのようにたとえているのか説明する。	・筆者の考えを説明する。	『風姿花伝』 「秘すれば花」 【ズームアップ】中世の和歌
				③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に編者の考えをとらえ、今までの学習を生かして説明しようとしている。	記述の確認 (振り返りシート)			
12月	文章	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めるている。〔(2)イ〕	記述の点検 (ノート)	・「子愛する親」「巫医・楽師・百工などの専門技術者」「孔子（聖人）」らについて、それぞれの「師」に対する考え方を整理する。 ・韓愈の考える「師」とはどのような人か、説明する。	・韓愈の考える「師」とはどのような人か、話し合う。	『師説』 【比べ読み】 漢文と日本文学
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 (ペーパーテスト)			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 韓愈の考える「師」とはどのような人かについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の確認 (振り返りシート)			
1月	近世小説	読む	4	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔(2)イ〕	記述の点検 (ノート)	・「逢ふを待つ間に……恨みなるべし」や「さりともと…」の歌に込められた宮木の心情を考える。 ・勝四郎の心情の変化をまとめる。	・登場人物の行動や心情を説明する。	『雨月物語』 「浅茅が宿」 【ズームアップ】近世の出版文化
				② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	記述の分析 (ペーパーテスト)			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえて内容を整理し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認 (振り返りシート)			
領域ごとの計指導時間数の	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		0					
	読むこと		35					
指導時間数の合計			35					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（地歴公民科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸史料から我が国の歴史に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。（知識及び技能） ○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする。（思考力、判断力、表現力等） ○より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
日本史探究		3	全日制・普通科・3学年(文系)		詳説日本史探究(山川出版社)		
科目の目標		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民についての資質・能力を育成する。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	幕藩体制の確立 ～幕藩体制の展開	15	① 知識・技能 近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	・ 海外文献の読解・比較など、英語科との連携を図る。
			② 思考・判断・表現 近世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義などを、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察する。	定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
5月	幕藩体制の動揺	15	① 知識・技能 法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係をともに、諸史料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 見通しをもって学習に取り組もうとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
6月	近代国家の成立	15	① 知識・技能 対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをともに、諸史料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近世から近代への転換を理解する。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 近現代の地域・日本の世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
7～9月	二つの世界大戦とアジア	35	① 知識・技能 世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	・ 海外文献の読解・比較など、英語科との連携を図る。
			② 思考・判断・表現 世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 第一次世界大戦とその後の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			

10月	占領下の日本	15	① 知識・技能 占領政策と諸改革，日本国憲法の成立，平和条約と独立の回復，戦後の経済復興，アジア諸国との関係，高度経済成長，社会・経済・情報の国際化などを基に，我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係，現代の政治や社会の枠組み，国民生活の変容を理解する。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と，事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。
			② 思考・判断・表現 国際社会における我が国の役割について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
11月～ 1月	高度成長の時代 ～激動する世界と日本	25	① 知識・技能 政治・経済や対外関係，現代の政治や社会の枠組み，国民生活の変容を理解している。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と，事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。
			② 思考・判断・表現 主題を設定し，政治の展開，日本経済の発展，国際社会における我が国の役割について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 現代日本の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
指導時間数の計		105				

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（社会科）

学校の教育目標		①主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる。 ②一個人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる。 ③多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる。 ④一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる。						
教科の目標		○現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(学びに向かう力、人間性等) ○地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力、人間性等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年			使用教科書名(出版社)		
日本史研究		2	全日制・普通科・3学年			新詳日本史(浜島書店)		
科目の目標		○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
時期 月 週 日	単元・題材名	指導時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 週日	原始・古代の日本と東アジア	5	① 知識・技能 中華思想を背景にした東アジアの国際秩序を理解する。		定期考査	原始・古代の日本と東アジアについて考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科
			② 思考・判断・表現 周辺国の中国への従属を前提にした外交関係について考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 国際秩序を通じて、東アジア文化圏が形成されたことについて自ら深める		授業態度発問評価			
5月 週日	中世・近世の日本と東アジア	6	① 知識・技能 日本は冊封体制から離脱し、朝貢貿易を行わなかったことを理解する。		定期考査	中世・近世の日本と東アジアについて考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科
			② 思考・判断・表現 漢民族の王朝である明は、伝統的外交秩序を回復させようとしたことについて考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 江戸幕府は、冊封体制に入らなかったことについて自ら深める。		授業態度発問評価			
6月 週日	近代・現代の日本と東アジア	8	① 知識・技能 各主権国家は、平等な権利をもつことを理解する。		定期考査	近代・現代の日本と東アジアについて考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科
			② 思考・判断・表現 国際法で戦争時の捕虜の扱い、海上の慣行や外交儀礼などについて考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 主権国家体制について自ら深める。		授業態度発問評価			
7月 週日	古代・中世の美術の変遷	5	① 知識・技能 飛鳥文化から室町文化までの変遷について理解する。		定期考査	古代・中世の美術の変遷について考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科芸術科
			② 思考・判断・表現 各時代の文化的特徴について考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 建築、庭園・仏像・絵画について自ら深める。		授業態度発問評価			
9月 週日	土地制度の変遷	8	① 知識・技能 公地公民制から戦後の農地改革までの土地制度を理解する。		定期考査	土地制度の変遷について考察する	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科
			② 思考・判断・表現 初期荘園後、寄進地系荘園が発生し、荘園公領制が成立した過程を考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 近代的な土地・税制である地租改正について自ら深める。		授業態度発問評価			
10月 週日	近代日本の通貨制度と経済	8	① 知識・技能 通貨制度と経済の歩みについて理解する。		定期考査	近代日本の通貨制度と経済について考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科数学科
			② 思考・判断・表現 金本位制から管理通貨制度の確立までの過程を考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 管理通貨制度について自ら深める。		授業態度発問評価			
11月 週日	社会運動の発生	8	① 知識・技能 社会主義の動きについて理解する。		定期考査	社会運動の発生について考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科理科 保健体育科
			② 思考・判断・表現 社会問題の発生について考える。		学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 工場法について自ら深める。		授業態度発問評価			
12月 週日	戦後恐慌から金融恐慌へ	6	① 知識・技能 金融恐慌について理解する。		定期考査		ワークシートグループ 発表比較討論	公民科数学科家庭科

			② 思考・判断・表現 財閥の発展について考える。	学習課題集の提出	戦後恐慌から金融恐慌へについて 考察する。		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 在華紡の発展について自ら 深める。	授業態度発問評価			
1月 週日	極東国際軍事裁判(東京裁判)	6	① 知識・技能 極東国際軍事裁判(東京裁判)について理解する。	定期考査	極東国際軍事裁判(東京裁判)に ついて考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科
			② 思考・判断・表現 昭和天皇の「人間宣言」について考える。	学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度公職追放について自ら深 める。	授業態度発問評価			
2月 週日	民主化政策	5	① 知識・技能 経済の民主化について理解する。	定期考査	民主化政策について考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科国語科
			② 思考・判断・表現 労働の民主化について考える。	学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 教育の民主化について自ら 深める。	授業態度発問評価			
3月 週日	高度経済成長期の産業と公害	5	① 知識・技能 産業構造の転換について理解する。	定期考査	高度経済成長期の産業と公害につ いて考察する。	ワークシートグループ 発表比較討論	公民科 保健体育科理科
			② 思考・判断・表現 高度経済成長のひずみについて考える。	学習課題集の提出			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 革新自治体の成立について自ら深める。	授業態度発問評価			
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（地歴公民科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
世界史探究		3	全日制・普通科・3学年(文系)		詳説世界史探究(山川出版社)			
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第9章 大交易・大交流の時代	15	① 知識・技能 「世界の一体化」が始まった時期のアジアの動きやヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 ② 思考・判断・表現 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭曉『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		定期考査 提出課題 発問評価 授業態度定期考査 定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	・海外文献の読解・比較など、英語科との連携を図る。
5月	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	15	① 知識・技能 オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国や清朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ② 思考・判断・表現 オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国や清朝を比較したうえで、それぞれの特徴や関係を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 アジアの諸帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見い出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		定期考査 定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
6月	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命	15	① 知識・技能 ルネサンス・宗教改革・大航海時代・産業革命の特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 ② 思考・判断・表現 美術作品の図像や資料をもとに、ルネサンス・大航海時代・産業革命の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ルネサンス・宗教改革・産業革命について、自分が抱いた興味関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		定期考査 定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
7～9月	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	35	① 知識・技能 19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 ② 思考・判断・表現 ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 19世紀後半のヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		定期考査 定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	・海外文献の読解・比較など、英語科との連携を図る。

10月	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	15	① 知識・技能 第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに、戦間期の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。	定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 第一次世界大戦と第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
11月～ 1月	第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	25	① 知識・技能 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している	定期考査	・ 絵画・史料など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。	・ 資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・ テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。	定期考査 レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦の展開について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
指導時間数の計		105					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（社会科）

学校の教育目標		①主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる。 ②一個人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる。 ③多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる。 ④一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる。						
教科の目標		○現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(学びに向かう力、人間性等) ○地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力、人間性等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
世界史研究		2	全日制・普通科・3学年		アカデミア世界史(浜島書店)			
科目の目標		○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 週日	都市国家アテネ	5	① 知識・技能 古代民主政と市民の暮らしについて理解する。 ② 思考・判断・表現 奴隷制の存在について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ギリシア文化について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	都市国家アテネについて考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科芸術科家庭科
5月 週日	古代都市ローマ	6	① 知識・技能 政治・経済・文化の中心であったローマについて理解する。 ② 思考・判断・表現 ローマ発展を支えた統治体制について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ローマ文化について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価			
6月 週日	中国思想史	8	① 知識・技能 中国では、儒教・道教・仏教が互いに影響を与えながら思想を発展させたことを理解する。 ② 思考・判断・表現 支配者側は、儒教を中心に三教を利用したことについて考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日本への儒教の伝播について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	中国思想史について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科国語科芸術科
7月 週日	中央ユーラシアの歴史と社会	5	① 知識・技能 騎馬遊牧民が定住農耕世界に侵入し、大きな影響を与えたことについて理解する。 ② 思考・判断・表現 中央ユーラシアの変遷について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 草原の遊牧民の生活とオアシス民の生活について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	中央ユーラシアの歴史と社会について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科家庭科 保健体育科
9月 週日	中世ヨーロッパ農村の暮らし	8	① 知識・技能 中世の農民と領主の暮らしについて理解する。 ② 思考・判断・表現 農民にかかる重い負担について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然の恵みと人々の暮らしについて自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	中世ヨーロッパ農村の暮らしについて考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科理科 数学科
10月 週日	アメリカ大陸到達の影響	8	① 知識・技能 ヨーロッパとアメリカ大陸からもたらされたものについて理解する。 ② 思考・判断・表現 鉱山で働かされた先住民について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 先住民の人口減少について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	アメリカ大陸到達の影響について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科 保健体育科
11月 週日	ナショナリズムと国旗・国家	8	① 知識・技能 ナショナリズムの歴史について理解する。 ② 思考・判断・表現 民族感情の起源について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 モニュメントにみるナショナリズムについて自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	ナショナリズムと国旗・国家について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科 保健体育科英語科
12月 週日	社会主義の歴史	6	① 知識・技能 社会主義の流れについて理解する。 ② 思考・判断・表現 国際社会(共産)主義運動について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 20世紀の社会主義について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	社会主義の歴史について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科家庭科
1月 週日	女性の権利	6	① 知識・技能 女性の権利の歴史について理解する。 ② 思考・判断・表現 女性解放運動の高まりについて考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 男女共同参画社会について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	女性の権利について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科家庭科 保健体育科
2月 週日	アメリカの人種問題	5	① 知識・技能 アフロ＝アメリカン(黒人)史について理解する。 ② 思考・判断・表現 権利拡大と根強く残る差別について考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ヒスパニックの急増について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	アメリカの人種問題について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科家庭科 保健体育科
3月 週日	世界文化遺産	5	① 知識・技能 おもな世界文化遺産について理解する。 ② 思考・判断・表現 破壊された遺跡の現状を考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 世界遺産の保全・修復における国際協力について自ら深める。		定期考査 学習課題集の提出 授業態度発問評価	世界文化遺産について考察する。	ワークシートグループ発表比較討論	公民科家庭科理科
指導時間数の計		70						

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（地歴公民科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校						
		① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一個人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
政治経済		2	全日制・普通科・3学年(文系)		政治・経済(数研出版)			
科目の目標		(知識及び技能)社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (思考力・判断力等)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 (学びに向かう力、人間性等)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割 割を果たそうとする自覚などを深める。						
時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 1 民主政治とその基本原理	2	① 知識・技能 ●民主政治の基本原則として、絶対主義、自然権、社会契約、法の支配などの概念や、議会制や権力分立制などとの関連性についての理解を深めている。また、民主政治の本質について、一国の政治の在り方を最終的に決定する権力が国民にあるとする国民主権の考えを原理とし、国民による承認ないし同意に権力の正統性を求める政治であるという理解を基に、民主政治は国民の自治を最大限に重視しながらも、自治の側面と強制的側面とのバランスをとっていこうとする政治体制であることの理解を深めている。		定期考査（知識問題など）	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
			② 思考・判断・表現 ●民主政治の基本原則として、絶対主義、自然権、社会契約、法の支配などの概念や、議会制や権力分立制などとの関連性について多面的・多角的に考察し、表現している。また、民主政治の本質の理解を基に、現代政治との関連性を多面的・多角的に考察し、表現している。		定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治・現代の国際政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など			
4月	2 民主政治の展開	2	① 知識・技能 ●法の支配や立憲主義の考え方が成立した近代政治の過程や、それらの考えの基に憲法が定められ、国民の自由や権利が保障されていることについて理解を深めている。また、国際連合により採択された世界人権宣言、国際人権規約などの人権文書の意義を踏まえ、人権擁護は人類共通の課題であるという認識が世界的に広まっていることについての理解を深めている。		定期考査（知識問題など）	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
			② 思考・判断・表現 ●法の支配や立憲主義の考え方が成立した近代政治の過程や、それらの考えの基に憲法が定められ、国民の自由や権利が保障されていることの意義について、自由権と社会権の成立過程や、参政権の拡大過程、ファシズムやポピュリズム等の危険性等を多面的・多角的に考察し、表現している。また、国際連合により採択された世界人権宣言、国際人権規約などの人権文書の意義と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。		定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度（上記参照）		討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など			

5月	3 政治体制の比較	1	① 知識・技能 ●世界の主な政治体制について、同じ民主政治でも、イギリスでは議院内閣制、アメリカでは大統領制というように、各国の政治文化を背景にして様々な形態があること、また、近隣アジア諸国の政治体制、政治状況の特質や動向を取り上げ、民主政治の現状についての理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●民主政治の本質の理解を基に、世界の主な政治体制と関連させながら、現代政治の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	第2節 日本国憲法と基本的人権 1 日本国憲法の基本的性格	1	① 知識・技能 ●日本国憲法と大日本帝国憲法の比較を通して、それぞれの特徴の理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●民主主義と天皇主権という異なる基本原理に基づく日本国憲法と大日本帝国憲法によって形成された国家体制の違いや国民の権利保障の在り方の違いについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●日本国憲法と基本的人権の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	2 基本的人権の保障	4	① 知識・技能 ●基本的人権の尊重について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、公共の福祉に関し、人権は侵すことのできない永久の権利であるものの無制限に認められるわけではなく、他者の人権保障のために制約される場合があることについて理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●民主政治の本質についての理解を基に、憲法とは国民の自由や基本的人権を保障するために、それらを制限することができる国家の組織や政府の行為について規定するものであり、国のあらゆる法の基盤となる最高法規であるという立憲主義の考え方に基づいて、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 日本国憲法の平和主義	2	① 知識・技能 ●我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●我が国の安全保障と防衛の在り方を示す具体的事例や、自衛隊などが参加する国連平和維持活動（PKO）など日本が国際社会に貢献してきた具体的な事例を取り上げ、その現状や他の先進国との比較などを通して国際社会における日本の立場と役割について探究することを通して、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	第3節 日本の政治機構 1 国会のしくみと役割	2	① 知識・技能 ●議会制民主主義が、理念的には権力分立制の下、国民代表制と多数決の原理に基づく議会を通じて運営されていることを、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●議院内閣制における国会と内閣の関係について、国民主権の下で、国民の意思を国政に反映させるため国会の立法権と内閣の行政権の適切な関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●日本の政治機構の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

	2 内閣と行政機構	2	① 知識・技能 ●内閣と行政機構の在り方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●内閣と行政機構の在り方について、行政国家、官僚制、大衆民主主義などの概念を取り上げ、福祉国家の下で国家機能が著しく複雑化・大規模化して、行政府の役割が増大化したことなどを踏まえて、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方等について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 裁判所のしくみと人権保障	2	① 知識・技能 ●裁判所のしくみと人権保障について、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために法に基づく公正な裁判の保障があること、公正な裁判のためには司法権の独立が必要であることを、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、裁判員制度を通して、国民の司法参加の意義について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●裁判所のしくみと人権保障について、人権の保障を目指す法の下に政治権力を従属させることによって、為政者の恣意的支配を排除し、国民主権を確立し人権保障を確保しようとする民主政治に不可欠な法の支配の原理に基づき、個人の尊厳と法の下での平等を求めるものであることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	4 地方自治のしくみと住民生活	1	① 知識・技能 ●地方自治について、地方自治が住民自らの意思と責任の下で行われるものであり、民主政治の基盤をなすものであることについて理解を深めている。また、我が国地方自治の政治制度では、直接民主制の考え方が国政よりもより多く取り入れられていることや、執行機関の最高責任者である首長と議会の議員とが、住民を代表するものとして、それぞれ独立に選出され、相互に抑制と均衡の関係を保っていること等について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●地方自治について、地方自治における直接請求権など、投票以外にも多様な政治参加の在り方があることについての理解を基に、生徒自らの主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	本校がつくばみらい市役所と連携して実施している、同市役所におけるインターンシップ活動やボランティア活動などと運動し、自らが暮らす地域社会についてより考えを深める。
6月	第4節 政治参加と民主政治の課題 1 戦後政治と政党	1	① 知識・技能 ●戦後政治と政党について、戦後政治の推移を、55年体制の成立と崩壊の過程であることについて理解を深めている。また、政党が同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され、政策を示し、選挙を通して多くの人々の合意を得て政権を獲得しそれを実現しようとする団体であり、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることについて理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●戦後政治と政党について、政党が同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され、政策を示し、選挙を通して多くの人々の合意を得て政権を獲得しそれを実現しようとする団体であり、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることについての理解を基に、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●政治参加と民主政治の課題の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●民主政治の基本原則と展開の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	2 選挙制度のしくみ	1	① 知識・技能 ●選挙制度のしくみについて、その背景として参政権が普通選挙制度の実現によって確立し、政治的平等の原理の保障に至ったという理解の基に、選挙や国民投票など、国民の政治参加のための制度との関連について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●選挙制度の課題について、政治的平等の原理の保障の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

	3 世論と情報化社会	1	① 知識・技能 ●世論と情報化社会について、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を容易に活用でき、短時間で大量の情報を手に入れることが可能となった現代社会において、信頼できる情報源を見極めて、必要な情報とそうでない情報、信用できる情報とそうでない情報を選別するための合理的な基準を形成し、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ●マスメディアなどが国民世論の形成に果たす役割が大きいこと、特定の政治的志向をもたない人々が増加したり、政治的無関心の広がりが見られたりすることなどを踏まえ、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	情報科の学習と連携し、情報化社会における諸課題を、自らの問題及び社会の問題の両面から捉え、理解及び考察する。
	Thinking Time	3	① 知識・技能 ●現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察・構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ●民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ●現代日本の政治に関する諸課題の学習を通して、現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ●現代日本の政治に関する諸課題の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	「総合的な探究」における活動と連携し、情報収集やそれを読み取る技能、得られた情報の多角的・多面的な考察、自らの考えの論理的な表現などに関する能力を高める。
	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 1 資本主義経済の発展と変容	2	① 知識・技能 ●資本主義経済の発達と変容について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●資本主義経済の発展と変容について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、現代日本の経済・現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
7月	2 経済活動の主体	1	① 知識・技能 ●経済主体と経済循環について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、家計の役割については、家計は所得の制約の中で消費や貯蓄を行い、労働を企業に供給していること、消費と貯蓄が企業の生産や投資と密接に関連していることを理解している。企業の役割については、企業が家計や他の企業から提供された土地、労働、資本といった生産要素を結合し生産活動を行うことを理解している。政府の役割については、現代の政府が、家計や企業の経済活動に委ねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等を是正するなどの役割を果たしていることを理解している。また、政府以外に特定非営利活動法人（NPO法人）などの新たな経済主体が生まれていて、経済循環が複雑、多様化していることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ●経済活動の主体について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	第2節 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ	2	① 知識・技能 ●市場経済における、経済活動と市場の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。特に、代表的な経済学者の考え方や市場構造の変動、具体的な市場における価格形成の事例の考察を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●市場経済の機能と限界について、代表的な経済学者の考え方や市場構造の変動、具体的な市場における価格形成の事例の考察を通して、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●現代経済のしくみの学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●経済活動の意義と経済体制の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

	2 国民所得と経済成長	3	① 知識・技能 ●国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 金融のしくみと働き	2	① 知識・技能 ●金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●金融を通じた経済活動の活性化について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	家庭科における、自身のライフプランとしての金融に関する学習と連携し、金融について体系だった学習を行う。
9月	4 財政のしくみと租税	2	① 知識・技能 ●財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●持続可能な財政及び租税の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。また、歳入・歳出面での財政健全化について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	第3節 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ	3	① 知識・技能 ●戦後日本経済のあゆみについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。●戦後日本経済のあゆみについての学習を通して、経済活動と福祉の向上との関連について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、表現している。 ② 思考・判断・表現 ●日本経済と福祉の向上の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●日本経済と福祉の向上の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	2 中小企業と農業・食料	2	① 知識・技能 ●中小企業と農業・食料について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●産業構造の変化と起業、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 公害防止と環境保全	1	① 知識・技能 ●公害防止と環境保全について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●公害防止と環境保全など安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

10月	4 消費者問題と消費者保護	1	① 知識・技能 ●消費者問題と消費者保護について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●消費者問題と消費者保護について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	自らが今年中に成人となることを踏まえ、消費者問題を社会問題だけでなく自らの問題として捉え、理解及び考察する。
	5 労使関係と労働市場	2	① 知識・技能 ●労使関係と労働市場について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●多様な働き方・生き方を可能にする社会について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	6 少子高齢社会と社会保障	2	① 知識・技能 ●少子高齢社会と社会保障について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
11月	Thinking Time	3	① 知識・技能 ●現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察・構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ●社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ●現代日本の経済に関する諸課題の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●現代日本の経済に関する諸課題の学習を通して、現代日本の経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	「総合的な探究」における活動と連携し、情報収集やそれを読み取る技能、得られた情報の多角的・多面的な考察、自らの考えの論理的な表現などに関する能力を高める。
	第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 1 国際社会と国際法	1	① 知識・技能 ●国際社会と国際法について、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現（この節共通） ●国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●国際政治の動向の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●現代の国際政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	2 国際社会の組織化	2	① 知識・技能 ●国際社会の組織化について、国際連合をはじめとする国際機構の役割に関し、国際連合や地域的な政府間機関が、国際平和、環境、資源・エネルギー問題、南北問題、人権擁護などの国際社会における諸問題に取り組んでいるということ。現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 (上記参照) ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

	3 戦後国際政治の展開	2	① 知識・技能 ●戦後国際政治の展開について、国際社会の変遷を、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のために国際連合をはじめとする国際機構や、国際法が発展してきたという理解の基に、21世紀以降の国際社会の動向について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 (上記参照) ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
第2節 国際経済の動向 1 貿易と国際収支		1	① 知識・技能 ●貿易と国際収支について、貿易の現状と意義、為替相場の変動に関し、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●相互依存関係が深まる国際経済の特質について、特に、国際経済では、国内経済と異なり、労働や資金などの移動に多くの面で制約があったが、経済活動がグローバル化し、地球的な規模で自由に行われるようになってい一方、国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ●国際経済の動向の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。●現代の国際経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	2 国際経済のしくみ	2	① 知識・技能 ●国際経済のしくみについて、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 (上記参照) ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 地域主義の動き	1	① 知識・技能 ●地域主義の動きについて、例えば、アメリカ合衆国、日本と中国のように政治体制が異なっても経済的な相互依存が深まっている国や地域、欧州連合（EU）のように経済統合、通貨統合を推進しつつあるがその矛盾や利害対立を内部にかかえている地域、東南アジア諸国連合（ASEAN）のように急速な経済成長を成し遂げた地域、アフリカなど経済格差が著しい地域など特徴的なそれぞれの地域の現状や、国際経済の中で直面している課題について、また、各国で進められている経済連携協定（EPA）や自由貿易協定（FTA）の進展と国際経済との関連について、国益と国際協調の観点から、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 (上記参照) ③ 主体的に学習に取り組む態度 (上記参照)	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

12月	第3節 国際社会の課題と日本の役割 1 核兵器の廃絶と軍縮問題	1	① 知識・技能 ●核兵器の廃絶と軍縮問題について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取組について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（この節共通） ●国際社会の課題と日本の役割の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	前学年で実施した修学旅行における平和学習を振り返り、それに加えて本時に体系的な知識を得ることで、国際平和の実現に向けて、日本や自らの役割を考える。
	2 地域紛争と人種・民族問題	1	① 知識・技能 ●地域紛争と人種・民族問題について、国際紛争は国家間の対立だけではなく、民族対立が拡大したり、武装集団によるテロ行為を契機に戦争が生じたりするなどその要因が多様化していることにも触れ、その上で、平和共存と協調の下に国際関係を展開させ、利害調整を行い、国際的な相互依存関係の深まりの中において人類の平和的共存を目指してきたという国際政治の特質を、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現（この節共通） ●社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する活動を通して、グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度（上記参照）	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	3 地球環境と資源・エネルギー問題	2	① 知識・技能 ●地球環境と資源・エネルギー問題について、地球環境問題が、地球規模の気候変動や生物多様性の危機、オゾン層の破壊、熱帯林の減少など様々な問題として現れており、これらの問題が、有限な資源・エネルギーの大量消費をはじめ、人口増加、工業化、農業活動の拡大など人間の諸活動の拡大によって引き起こされ、さらに個々の問題が相互に複雑に絡み合っており、地球的問題群を形成し、その被害や影響が一国内にとどまらず、国境を越え地球規模にまで広がっている現状および、その解決に向けて、環境負荷を最小限にとどめ、持続可能な社会を構築するためには、低炭素、循環、自然共生、省資源・省エネルギー、新しい資源・エネルギーの開発やその利用など、様々な方策を検討する必要がある。エネルギーについては安全性、安定供給、経済効率、環境適合、国際性、経済成長の観点が必要であり、国際社会が協力して統合的に解決することが必要となっていること。さらに、このような現状を踏まえて、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展（開発）を優先する考え方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現（上記参照） ③ 主体的に学習に取り組む態度（上記参照）	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	4 発展途上国の経済と経済協力	1	① 知識・技能 ●発展途上国の経済と経済協力について、国際社会と国際連合は、持続可能な開発のための取組や人間の安全保障の取組などを進めているが、その一方で先進国と発展途上国との間、発展途上国間及び先進国内においても経済のグローバル化に伴って経済格差が存在していること、また、飢餓や貧困に苦しむ国々や地域は政治的に不安定になりやすく、国民の基本的人権の保障及び実現確保が困難となり、国際社会の不安定要因となりやすいこと、そのことがさらに飢餓や貧困の問題ともつながっているという現状を踏まえて、国際経済格差の是正について、発展途上国の一国全体としての経済成長や発展を優先させようとする考え方と、人間の安全保障の取組や人権を重視して発展途上国内の極度の貧困状況にある人々に対する援助を優先しようとする考え方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現（上記参照） ③ 主体的に学習に取り組む態度（上記参照）	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	

1月	5 日本の国際的地位と役割	1	① 知識・技能 ●日本の政府開発援助（ODA），地球環境問題解決への資金や技術協力、自衛隊などが参加する国連平和維持活動（PKO）など国際平和実現のための努力、青年海外協力隊の活動などこれまで日本が国際社会に貢献してきた現状や他の先進国との比較などを通して日本の国際的地位と役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ●国際社会において果たすことが求められる日本の役割について、現代の国際政治・経済の現状を踏まえ、それらと関連付けながら、グローバル化が進み、国境や地域を越えて人やモノや情報が行き交い、結び付きが強くなった国際社会において日本がこれから果たすべき役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （上記参照）	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	
	Thinking Time	4	① 知識・技能 ●現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ●社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する活動を通して、グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ●国際社会の諸課題の学習を通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組んでいる。 ●グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査（知識問題など） 定期考査（思考・論述問題など） 討論・発表 学習の振り返り 討論・発表 学習の振り返り 課題提出 など	・資料を精査し、体系的な知識を得る。 ・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成する。 ・複数の資料を比較したり、批判的に捉えたりするなどにより、知識や考えを深める。 ・あるテーマについての他者との議論やその表現を通じて、自らの考えをさらに深める。	・得た知識を元に、論理的に自らの考えを構成し、言語化する。 ・あるテーマについての他者との議論や、自らの考えの表現を行う。	「総合的な探究」における活動と連携し、情報収集やそれを読み取る技能、得られた情報の多角的・多面的な考察、自らの考えの論理的な表現などに関する能力を高める。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（地歴公民科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一個人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸史料から我が国の歴史に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。（知識及び技能） ○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする。（思考力、判断力、表現力等） ○より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
地理探究		2	全日制・普通科・3学年(理系)		新詳地理探究(帝国書院)		
科目の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4～5月	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	14	① 知識・技能 地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	定期考査	場所や人間と自然環境との相互以前関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る
			② 思考・判断・表現 地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
6～7月	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	14	① 知識・技能 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	定期考査	場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る
			② 思考・判断・表現 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
9月	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏	7	① 知識・技能 交通、通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	定期考査	場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る
			② 思考・判断・表現 交通、通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 交通、通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
10月	第4章 人口・村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	7	① 知識・技能 人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	定期考査	場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る
			② 思考・判断・表現 人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
11月	第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	7	① 知識・技能 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族・領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	定期考査	場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る
			② 思考・判断・表現 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			

				③ 主体的に学習に取り組む態度 生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り			
12～1月	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	21	① 知識・技能 いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。	定期考査	空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を行う	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。	内容の解説や動画・文献などを通して、英語科との連携を図る	
			② 思考・判断・表現 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査（論述など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り				
			③ 主体的に学習に取り組む態度 現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り				
指導時間数の計		70						

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。（知識・技能） ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。（思考・判断・表現等）□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。（主体的に取り組む態度等）
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅲ	4	全日制・普通科・3学年（理系）	数学Ⅲ Standard（東京書籍）

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
-------	--	--	--	--	--	--	--

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2～4週 12日 5月 2,4週 8日 6月 1～3週 12日	1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限 3節 関数の極限	35	① 知識・技能 関数と極限における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 関数と極限を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 関数と極限における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○分数関数 $y=(ax+b)/(cx+d)$ のグラフをかくことができる。また、分数関数のグラフの特徴を理解する。 ○無理関数 $y=\sqrt{ax+b}$ のグラフをかくことができる。また、無理関数のグラフの特徴を理解する。 ○逆関数の意味を理解し、関数の逆関数を求めることや、関数のグラフを利用してその逆関数のグラフをかくことができる。また、合成関数の意味を理解し、2つの関数の合成関数を求めることができる。	○関数と極限の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○関数と極限の解法を他の人と比較し各自の考察を深める。	○関数と極限の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
7月 2～3週 8日 9月 1～4週 16日 10月 1～2週 8日	2章 微分 1節 微分法 2節 いろいろな関数の導関数	35	① 知識・技能 微分における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 微分を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 微分における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○導関数の定義にしたがい、基本的な関数の導関数を求め、導関数の基本的な性質を理解する。 ○積・商の導関数を用いて関数の導関数を求めることができる。 ○合成関数の微分法及び逆関数の微分法について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。 ○三角関数の導関数について理解し、合成関数の微分法を用いて、三角関数を含む関数の導関数を求めることができる。 ○自然対数の底eを導入し、対数関数の導関数を理解する。対数微分法を理解し、指数関数の導関数を求めることができる。 ○高次導関数を用い第n次導関数を求められる。	○微分の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○微分の解法を他の人と比較し各自の考察を深める。	○微分の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
10月 3～4週 8日 11月 1～4週 16日	3章 微分の応用 1節 関数の増減 2節 微分のいろいろな応用	35	① 知識・技能 微分の応用における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 微分の応用を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 微分の応用における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求められる。導関数を媒介変数で表したり媒介変数で表された曲線の接線の方程式を求めたりすることができる。 ○平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。関数の増減を調べたり関数の値の変化を調べて極値を求めたりすることができる。 ○曲線の凹凸に関する性質を用いていろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。 ○微分法を用いて、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○微分法や平均値の定理を用いて、不等式を証明することができる。 ○1次近似式について理解し、関数の近似式を求めることができる。	○微分の応用の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○微分の応用の解法を他の人と比較し各自の考察を深める。	○微分の応用の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
12月 1～3週 12日 1月 2～4週 12日	4章 積分とその応用 1節 不定積分 2節 定積分 3節 面積・体積・長さ	35	① 知識・技能 積分とその応用における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 積分とその応用を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積分とその応用における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。 ○置換積分法や部分積分法により不定積分を求めることができる。 ○部分分数分解及び三角関数の加法定理から導かれる積を和・差に直す公式を用いて分数関数や三角関数を変形し不定積分を求めることができる。 ○置換積分法や部分積分法を用いたり偶関数と奇関数の定積分の性質を用いたりして、定積分の値を求めることができる。 ○区分求積法の考え方を理解し、和の極限値を求めることができる。 ○曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積、曲線の長さを定積分によって求めることができる。	○積分とその応用の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○積分とその応用の解法を他の人と比較し各自の考察を深める。	○積分とその応用の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。

指導時間数の計	140						
---------	-----	--	--	--	--	--	--

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学B		2	全日制・普通科・3学年(文系)		数学B Standard(東京書籍)		
科目の目標			数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2～4週 6日 5月 2,4週 4日 6月 1～3週 6日 7月 2～3週 4日 9月 1～4週 8日 10月 1～4週 8日	1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	36	① 知識・技能 数列における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 数列を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 数列における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○数列の問題演習を通じて数列の性質を理解する。 ○いろいろな数列の問題演習を通じていろいろな数列の性質を理解する。 ○漸化式と数学的帰納法の問題演習を通じて漸化式と数学的帰納法の性質を理解する。	○数列の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○数列の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○数列の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
11月 1～4週 8日 12月 1～3週 6日 1月 2～4週 6日	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布 3節 正規分布 4節 統計的な推測	34	① 知識・技能 統計的な推測における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 統計的な推測を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 統計的な推測における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○標本調査の問題演習を通じて標本調査の性質を理解する。 ○確率分布の問題演習を通じて確率分布の性質を理解する。 ○正規分布の問題演習を通じて正規分布の性質を理解する。 ○統計的な推測の問題演習を通じて統計的な推測の性質を理解する。	○統計的な推測の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○統計的な推測の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○統計的な推測の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学B		2	全日制・普通科・3学年(理系β)		数学B Standard(東京書籍)		
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2～4週 6日 5月 2,4週 4日 6月 1～3週 6日 7月 2～3週 4日 9月 1～4週 8日 10月	1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	36	① 知識・技能 数列における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 数列を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 数列における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○数列の問題演習を通じて数列の性質を理解する。 ○いろいろな数列の問題演習を通じていろいろな数列の性質を理解する。 ○漸化式と数学的帰納法の問題演習を通じて漸化式と数学的帰納法の性質を理解する。	○数列の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○数列の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○数列の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
11月 1～4週 8日 12月 1～3週 6日 1月 2～4週 6日	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布 3節 正規分布 4節 統計的な推測	34	① 知識・技能 統計的な推測における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 統計的な推測を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 統計的な推測における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○標本調査の問題演習を通じて標本調査の性質を理解する。 ○確率分布の問題演習を通じて確率分布の性質を理解する。 ○正規分布の問題演習を通じて正規分布の性質を理解する。 ○統計的な推測の問題演習を通じて統計的な推測の性質を理解する。	○統計的な推測の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○統計的な推測の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○統計的な推測の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
数学C		2	全日制・普通科・3学年(文系)		数学C Standard(東京書籍)			
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1～4週 7日 5月 1～4週 8日 6月 1～4週 8日 7月 1～4週 8日	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用 3節 空間におけるベクトル	31	① 知識・技能 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 ベクトルを考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ベクトルにおける論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○平面上のベクトルを図示する活動などを通して、ベクトルの意味や演算法則などを理解する。 ○2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解する。 ○位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを考察する。 ○空間におけるベクトルの定義や平行条件、ベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。	○ベクトルの問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○ベクトルの問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○ベクトルの問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
9月 1～4週 8日 10月 1～4週 8日 11月 1～4週 8日	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	24	① 知識・技能 平面上の曲線における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 平面上の曲線を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平面上の曲線における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式について、条件を満たす点の軌跡の考え方をを用いて考察し、それらの曲線の基本的な性質について理解する。 ○曲線の媒介変数表示について理解する。また、媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり、サイクロイドなどの様々な曲線の媒介変数表示について理解する。	○平面上の曲線の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○平面上の曲線の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○平面上の曲線の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
12月 1～4週 7日 1月 1～4週 8日	3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	15	① 知識・技能 複素数平面における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 複素数平面を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 複素数平面における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また、複素数の実数倍や、和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。 ○複素数の極形式やドモアブルの定理、偏角を用いることにより2直線がなす角の大きさが求められることなどを理解する。	○複素数平面の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○複素数平面の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○複素平面の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70						

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学C	2	全日制・普通科・3学年(理系α)	数学C Standard(東京書籍)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
-------	---	--	--

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 1～4週 7日 5月 1～4週 8日 6月 1～4週 8日 7月 1～4週 8日	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用 3節 空間におけるベクトル	31	① 知識・技能 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 ベクトルを考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ベクトルにおける論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○平面上のベクトルを図示する活動などを通して、ベクトルの意味や演算法則などを理解する。 ○2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解する。 ○位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを考察する。 ○空間におけるベクトルの定義や平行条件、ベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。	○ベクトルの問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○ベクトルの問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○ベクトルの問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
9月 1～4週 8日 10月 1～4週 8日 11月 1～4週 8日	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	24	① 知識・技能 平面上の曲線における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 平面上の曲線を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平面上の曲線における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式について、条件を満たす点の軌跡の考え方をを用いて考察し、それらの曲線の基本的な性質について理解する。 ○曲線の媒介変数表示について理解する。また、媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり、サイクロイドなどの様々な曲線の媒介変数表示について理解する。	○平面上の曲線の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○平面上の曲線の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○平面上の曲線の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
12月 1～4週 7日 1月 1～4週 8日	3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	15	① 知識・技能 複素数平面における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 複素数平面を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学の見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 複素数平面における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また、複素数の実数倍や、和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。 ○複素数の極形式やドモアブルの定理、偏角を用いることにより2直線がなす角の大きさが求められることなどを理解する。	○複素数平面の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○複素数平面の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○複素平面の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
数学C		4	全日制・普通科・3学年(理系β)		数学C Standard(東京書籍)			
科目の目標		(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1～4週 14日 5月 1～4週 16日 6月 1～4週 16日 7月 1～4週 16日	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用 3節 空間におけるベクトル	62	① 知識・技能 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 ベクトルを考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ベクトルにおける論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○平面上のベクトルを図示する活動などを通して、ベクトルの意味や演算法則などを理解する。 ○2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解する。 ○位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを考察する。 ○空間におけるベクトルの定義や平行条件、ベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。	○ベクトルの問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○ベクトルの問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○ベクトルの問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
9月 1～4週 16日 10月 1～4週 16日 11月 1～4週 16日	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	48	① 知識・技能 平面上の曲線における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 平面上の曲線を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平面上の曲線における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式について、条件を満たす点の軌跡の考え方を用いて考察し、それらの曲線の基本的な性質について理解する。 ○曲線の媒介変数表示について理解する。また、媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり、サイクロイドなどの様々な曲線の媒介変数表示について理解する。	○平面上の曲線の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○平面上の曲線の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○平面上の曲線の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
12月 1～4週 7日 1月 1～4週 8日	3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	30	① 知識・技能 複素数平面における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 複素数平面を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 複素数平面における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。		行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また、複素数の実数倍や、和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。 ○複素数の極形式やドモアブルの定理、偏角を用いることにより2直線がなす角の大きさが求められることなどを理解する。	○複素数平面の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○複素数平面の問題演習の際に他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○複素平面の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		140						

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学Ⅱ		2	全日制・普通科・3学年(文系)		数学Ⅱ Standard(東京書籍)		
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 1～4週 7日 5月 1～4週 8日 6月 1～4週 8日 7月 1～4週 8日	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理	20	① 知識・技能 三角関数における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 三角関数を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 三角関数における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○三角関数の問題演習を通じて点と弧度法、グラフ、方程式・不等式を理解する。 ○三角関数の問題演習を通じて加法定理の性質を理解する。	○三角関数の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○三角関数の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○三角関数の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
9月 1～4週 8日 10月 1～4週 8日 11月 1～4週 8日	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数	25	① 知識・技能 指数関数・対数関数における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 指数関数・対数関数を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 指数関数・対数関数における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○指数関数の問題演習を通じて指数関数の性質を理解する。 ○対数関数の問題演習を通じて対数関数の性質を理解する。	○指数関数・対数関数の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○指数関数・対数関数の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○指数関数・対数関数の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
12月 1～4週 7日 1月 1～4週 8日	5章 微分と積分 1節 微分の考え 2節 積分の考え	25	① 知識・技能 微分と積分における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 微分と積分を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 微分と積分における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○微分の考えの問題演習を通じて指数関数の性質を理解する。 ○積分の考えの問題演習を通じて対数関数の性質を理解する。	○微分と積分の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○微分と積分の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○微分と積分の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画 (理科)

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校						
教科の目標		○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）			
化学		5	全日制・普通科・3 学年（理系）		数研出版 化学			
科目の目標		・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な 観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4 月 2 週 ～ 4 月 3 週	第 1 編第 1 👉 固体の構造	8	① 知識・技能 ・単位格子や配位数の意味について理解する。 ・アモルファス金属がもつ、通常の金属にはない特徴を理解する。 ・金属の結晶格子の名称や配位数、単位格子中の原子の数、充填率について理解をしている。 ・単位格子の一辺の長さから金属の原子半径を求める方法を理解する。 ・結晶格子の模型をつくり、原子の並び方や単位格子における原子の詰まり方について理解する。 ・NaCl 型、CsCl 型、ZnS 型の結晶格子について、配位数、単位格子中のイオンの数、組成式について理解をしている。 ・分子間力にはファンデルワールス力や水素結合があることを理解する。 ・分子間力と物質の沸点に関係があることを理解する。 ・ダイヤモンドの結晶格子について、配位数、単位格子中の炭素原子の数について理解をしている。		・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
			② 思考・判断・表現 ・結晶質と非晶質の構造の違いを説明できる。 ・金属の結晶格子の名称や配位数、単位格子中の原子の数、充填率を説明できる。 ・単位格子の一辺の長さから金属の原子半径を求める方法を説明できる。 ・結晶格子に関する知識を用い、密度を求めることができる。 ・イオン結晶の違いについて、結晶格子中の配位数やイオンの数に着目しながら説明できる。 ・水素化合物の分子量と沸点の関係（図11）について理解する。 ・水素化合物の分子量と沸点の関係が図11のようになる理由を説明できる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質について、結晶構造に基づきながら説明できる。		・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査)			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な物質でアモルファスに分類されるものは何があるか興味をもつ。 ・金属の結晶格子における原子の配列の仕方に興味をもつ。 ・イオン結晶について興味をもち、CaF2やReO3の結晶格子についても理解する。 ・物質の沸点に興味をもつ。 ・共有結合の結晶に興味をもつ。		・授業プリントの内容 ・授業への取り組み、 応答、発表の内容 ・成績の推移			
4 月 4 週 ～ 5 月 2 週	第 1 編第 2 👉 物質の状態変化	10	① 知識・技能 ・気体分子の熱運動と運動エネルギー、温度の関係について理解する。 ・状態変化の際に放出または吸収するエネルギーの名称を理解する。 ・加熱による物質の温度変化を表した図（図3）において、グラフと物質の状態の関係を理解する。 ・物質を構成する粒子間にはたらく力の大小について理解する。 ・大気圧に関して、単位を含めて理解をしている。 ・気液平衡の考え方を理解する。 ・蒸気圧および蒸気圧曲線について理解する。 ・蒸気圧と沸騰の関係について理解する。 ・状態図は物質のある温度・圧力における三態を表したものであり、それぞれの曲線や点の名称について理解する。		・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
			② 思考・判断・表現 ・拡散を熱運動に関連づけて説明できる。 ・加熱による物質の温度変化を表した図（図3）において、融解熱や蒸発熱にあたる部分を判断することができる。 ・加熱による物質の温度変化を表した図（図3）において、グラフの形について説明できる。 ・比熱や融解熱、蒸発熱を用いて状態変化に必要な熱量を計算することができる。 ・蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。 ・状態図を用いることで、ある温度・圧力における物質の状態を判断することができる。		・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査)			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・粒子の熱運動に興味をもつ。 ・物質の状態変化について興味をもつ。 ・身近な状態変化をあげる。 ・大気圧や蒸気圧、状態図について興味をもつ。		・授業プリントの内容 ・授業への取り組み、 応答、発表の内容 ・成績の推移			

5月3週 ～ 5月4週	第1編第3 👉 気体	9	① 知識・技能 ・気体の体積や圧力，絶対温度について理解する。 ・ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則を理解し，それらの式を用いることができる。 ・気体には状態方程式が成り立つことを理解する。 ・状態方程式を用いることができる。 ・分圧の法則について理解する。 ・分圧や体積の比とモル分率の関係を理解する。 ・混合気体の分圧や全圧を求めることができる。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。 ② 思考・判断・表現 ・ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則をそれぞれ適切に用い，気体の圧力や体積，温度を求めることができる。 ・状態方程式から気体の分子量や密度を求めることができる。 ・モル分率を用いた平均分子量の考え方を理解し，モル分率を用いて平均分子量を求めることができる。 ・分圧の考え方をを用いて，水上置換で捕集した気体の分圧を求めることができる。 ・理想気体と実在気体の違いに基づき，実在気体を理想気体に近づける条件を判断することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・気体の体積や圧力，絶対温度の関係性について興味をもつ。 ・気体の体積，圧力，温度，物質量にはそれぞれどのような関係が成り立つのかを，状態方程式をもとに興味をもつ。 ・混合気体の考え方に興味をもつ。 ・実在気体について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	地理 大気の流れと気候
6月1週 ～ 6月2週	第1編第4 👉 溶液	10	① 知識・技能 ・水和水という現象を理解する。 ・水への溶解には分子の極性の有無が関係していることを理解する。 ・飽和溶液において成立する溶解平衡について理解する。 ・溶解度や再結晶について理解したうえで，水和水をもつ物質の溶解量に関する考え方を理解する。 ・気体の溶解に関するヘンリーの法則について理解する。 ・質量モル濃度について理解したうえで，その値を求めることができる。 ・溶液では，蒸気圧降下，沸点上昇，凝固点降下，浸透圧という現象が起こることを理解する。 ・希薄溶液におけるこれらの現象は，溶質の種類に関係なく，溶質の粒子数（質量モル濃度）にのみ依存することを理解する。 ・コロイドとコロイド溶液およびその分類について理解をする。 ・コロイド溶液が示す特徴的な現象について理解する。 ・親水コロイドと疎水コロイドの沈殿について理解する。 ・冷却曲線と過冷却という現象について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・物質を電解質や非電解質に分けることができる。 ・分子を極性分子と無極性分子に分けることができ，水への溶解の可否を判断できる。 ・水和水をもつ物質の溶解量を求めることができる。 ・ヘンリーの法則を用いて，気体の溶解量を求めることができる。 ・質量パーセント濃度やモル濃度，質量モル濃度を適切に用い，濃度の換算をおこなうことができる。 ・沸点上昇度と質量モル濃度の関係について理解し，式を用いて計算をしたり沸点上昇度の大小を判断したりできる。 ・凝固点降下度と質量モル濃度の関係について理解し，式を用いて計算をしたり凝固点降下度の大小を判断したりできる。 ・沸点上昇や凝固点降下を利用することで分子量を求められることを理解し，その値を求めることができる。 ・浸透圧とモル濃度，絶対温度の関係（ファントホッフの法則）を理解し，それを利用することで分子量を求めることができる。 ・コロイド溶液に起こる現象から，そのコロイドの性質や特徴について判断できる。 ・塩析と凝析の違いについて説明できる。 ・保護コロイドについて説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・物質の溶解とそのしくみについて興味をもつ。 ・固体および気体の溶解度に関して興味をもつ。 ・希薄溶液の示す現象について興味をもつ。 ・コロイドの起こす現象や身近なコロイドについて興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	家庭科 豆腐作りと塩析

6月3週 ～ 6月4週	第2編第1👉 化学反応とエネルギー	10	① 知識・技能 ・化学反応に伴って放出または吸収する熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 ・発熱反応，吸熱反応とエンタルピー変化ΔHの正負の関係を理解する。 ・エンタルピー変化を付した反応式とエンタルピー変化を表した図を理解し，それぞれを作ることができる。 ・反応エンタルピーの種類を理解する。 ・反応エンタルピーの実験的な測定方法について理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・結合エネルギーの定義について理解する。 ・化学反応には，光を放出または吸収するものもあることを理解する。 ・光が関わる具体的な化学反応や現象を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・反応エンタルピーの種類を判断することで，エンタルピー変化を付した反応式を書いたり，反応エンタルピーを求めたりすることができる。 ・ヘスの法則を利用し，与えられたエンタルピー変化を適切に用いることで，目的のエンタルピー変化を求めることができる。 ・光が関わる化学反応や現象について，エンタルピー変化の正負や反応名が判断できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・化学反応に関わるエンタルピー変化に興味をもつ。 ・ヘスの法則およびその利用について興味をもつ。 ・化学反応に伴う光の放出や吸収について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
7月1週 ～ 7月2週	第2編第2👉 電池と電気分解	10	① 知識・技能 ・電池のしくみとダニエル電池について理解する。 ・電池のしくみに基づいて鉛蓄電池，燃料電池の構造や両極で起こる反応式について理解する。 ・実用電池の具体例をその種類（一次電池または二次電池）を含めて理解する。 ・陽極で酸化反応が，陰極で還元反応が起こることを理解する。 ・水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。 ・ファラデーの法則を理解する。 ・電気分解の工業的な利用について，その具体例を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・鉛蓄電池や燃料電池の構造に基づき，それぞれの電池で起こる現象が判断できる。 ・電池の両極での反応式を用いて，物質量などの量的な計算ができる。 ・ある電解液を電気分解した際に陽極および陰極で反応する物質や発生する物質を判断できる。 ・ある電解液を電気分解した際の陽極および陰極での反応を反応式で書くことができる。 ・ファラデーの法則に基づき，電気分解の量的関係の計算ができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・電池について，その構造や両極で起こる反応，現象に興味をもつ。 ・電気分解およびその工業的な利用について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
7月3週	第2編第3👉 化学反応の速さとしくみ	9	① 知識・技能 ・化学における反応速度の定義を理解する。 ・実験結果から反応速度を求める方法を理解する。 ・反応速度が速度定数とモル濃度を用いて表せることを理解する。 ・反応速度式のモル濃度の指数は実験によって決まることを理解する。 ・実験結果から，速度定数を求める方法を理解する。 ・反応速度に関わる要因として，温度，濃度，触媒があることを理解する。 ・触媒について，その役割や具体例，酵素が触媒であることを理解する。 ・活性化エネルギーについて理解する。 ・活性化エネルギーの大小と反応速度の関係について理解する。 ・活性化エネルギーと触媒や温度の関係について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・反応速度の定義に基づいて，反応速度を求めることができる。 ・実験結果を適切に処理し，反応速度を求めることができる。 ・反応速度式を用いて実験結果の処理などを行い，反応速度や速度定数を求めることができる。 ・反応速度に関わる条件に基づき，条件を変えることで反応速度がどのように変化するかを判断することができる。 ・触媒を用いると反応速度が大きくなる理由を，活性化エネルギーを用いて説明できる。 ・温度を大きくすると反応速度が大きくなる理由を，活性化エネルギーを用いて説明できる。 ・触媒を用いた際に反応エンタルピーがどのようになるか判断できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・反応速度について興味をもつ。 ・反応速度に関わる反応条件について興味をもつ。 ・化学反応のしくみと活性化エネルギーを用いた考え方に興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	数学 反応速度式と微分方程式

9月1週 ～ 9月2週	第2編第4 👉化学平衡	10	① 知識・技能 - 可逆反応，化学平衡，平衡状態の考え方を理解する。 - 化学平衡の法則を理解し，与えられた反応の平衡定数を濃度を用いて記述することができる。 - 固体が含まれる反応の平衡定数の書き方を理解し，その平衡定数を濃度を用いて記述することができる。 - 液体どうしや気体どうしの反応における平衡定数の書き方を理解する。 - ルシャトリエの原理について理解する。 - 濃度，圧力，温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか理解する。 - 触媒を用いた際に平衡がどのように変化するか理解する。 - 平衡移動の考え方の工業的製法への適用について理解する。 - 電離平衡および電離定数，水のイオン積について理解する。 - 電離度や電離定数を用いて，水素イオン濃度やpHを求める方法を理解する。 - 弱酸，弱塩基の遊離と塩の加水分解について理解する。 - 緩衝液の性質について理解する。 - 難溶性塩の水溶液中の溶解平衡および溶解度積について理解する。 - 共通イオン効果について理解する。 ② 思考・判断・表現 - 平衡定数を用い，化学平衡における量的関係を求めることができる。 - 濃度，圧力，温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか，ルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 - 電離度や電離定数を用いて量的計算を行い，水素イオン濃度やpHを求めることができる。 - 弱酸や弱塩基の遊離において起こる現象を判断することができる。 - 塩の加水分解の反応式を書くことができる。 - 溶解度積を用いて量的計算を行うことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 化学平衡とその考え方に興味をもつ。 - 化学平衡における平衡移動について興味をもつ。 - 電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容 ・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査) ・授業プリントの内容 ・授業への取り組み、応答、発表の内容 ・成績の推移	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
9月3週 ～ 9月4週	第3編第1 👉非金属元素	10	① 知識・技能 - 元素の分類（典型元素・遷移元素，金属元素・非金属元素）について理解する。 - 周期表に基づきながら，酸化物の示す性質や単体の酸化作用，還元作用を理解する。 - 水素および貴ガスの性質を理解する。 - 水素や貴ガスの利用について理解する。 - それぞれのハロゲン元素の性質（化学式，状態，色，酸化力，反応性など）を理解する。 - ハロゲン化水素の性質について理解する。 - 酸素および硫黄の単体や化合物についてその性質を理解する。 - 硫化水素と二酸化硫黄の製法や反応性，沈殿生成について理解する。 - 硫酸の工業的製法を理解する。 - 濃硫酸の4つの性質について理解する。 - 窒素およびリンの単体や化合物について，その性質を理解する。 - アンモニアの性質やその工業的製法について理解する。 - 硝酸の工業的製法について理解する。 - 炭素の同素体の性質について理解する。 - 炭素の化合物の性質について理解する。 - ケイ素の単体と化合物について，身近な利用例なども含めて理解する。 ② 思考・判断・表現 - 周期表に基づいて，元素の分類や周期性を説明できる。 - 水素の性質（例えば還元性）を反応式を用いながら説明できる。 - ハロゲンの酸化力に基づいて，その反応性の強弱を判断できる。 - 単体の塩素の実験室的製法において，水および濃硫酸を用いる順序を判断しその理由を説明できる。 - 単体の塩素の実験室的製法において，発生した塩素の捕集方法を判断できる。 - オキシ酸の化学式から，酸化数を判断できる。 - 硫酸の工業的製法における量的計算を行うことができる。 - ハーバー・ボッシュ法について量的計算を行うことができる。 - 一酸化窒素と二酸化窒素の性質について理解し，それぞれの製法の化学反応式を書くことができる。 - オストワルト法について量的計算を行うことができる。 - 炭素の同素体の構造を判断することができる。 - 炭素やケイ素の化合物が関わる化学反応式を書くことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 元素の分類や周期表に興味をもつ。 - 水素や貴ガスについて興味をもつ。 - ハロゲンの単体およびハロゲンを含む化合物について興味をもつ。 - 酸素および硫黄の単体や化合物に興味をもつ。 - 窒素およびリンの単体や化合物に興味をもつ。 - 炭素およびケイ素の単体や化合物について興味をもつ。 - 気体の製法と性質についてまとめる。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容 ・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査) ・授業プリントの内容 ・授業への取り組み、応答、発表の内容 ・成績の推移	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
10月1			① 知識・技能 - アルカリ金属元素の単体や化合物の性質を理解する。 - 炎色反応について理解する。 - 炭酸ナトリウムの工業的製法であるアンモニアソーダ法について理解する。 - アルカリ土類金属元素の単体や化合物の性質を理解する。 - 炎色反応について理解する。 - カルシウムの化合物の性質や特徴を理解する。 - アルミニウムの単体や化合物の性質を理解する。 - アルミニウムおよびスズ，鉛が両性金属であることを理解する。 - 複塩について理解する。 - 鉛（Ⅱ）イオンの反応について理解する。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	美術 石膏が固まる原理

週 ～ 10月2週	第3編第2👉 金属元素(Ⅰ)典型元素	10	② 思考・判断・表現 ・ナトリウムの反応について体系立てた知識を表現できる。 ・ナトリウムと水との反応や、アンモニアソーダ法に関わる反応の反応式を書くことができる。 ・カルシウムの反応について体系立てた知識を表現できる。 ・石灰水と二酸化炭素の反応など、カルシウムの化合物に関わる反応の反応式を書くことができる。 ・アルミニウムの反応について体系立てた知識を表現できる。 ・アルミニウムや酸化アルミニウムと酸または塩基の反応の反応式を書くことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・アルカリ金属の単体や化合物に興味をもつ。 ・アルカリ土類金属の単体や化合物に興味をもつ。 ・アルミニウムやスズ、鉛などの両性金属の単体や化合物に興味をもつ。	・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査)			
10月3週 ～ 10月4週	第3編第3👉 金属元素(Ⅱ)遷移元素	10	① 知識・技能 ・遷移元素にはどのような元素があるか理解する。 ・遷移元素の特徴について理解する。 ・錯イオンの名称や化学式、書き方、配位数、形について理解する。 ・鉄の単体や化合物の性質を理解する。 ・製鉄についてその過程を理解する。 ・鉄のイオンについて、その性質を理解する。 ・銅の単体や化合物の性質、利用例を理解する。 ・銅(Ⅱ)イオンの反応性について理解する。 ・銀の単体や化合物の性質を理解する。 ・金の単体の性質を理解する。 ・銀イオンの反応性について理解する。 ・亜鉛の単体や化合物の性質を理解する。 ・亜鉛の単体や酸化物、水酸化物が両性であることを理解する。 ・クロムの単体や化合物の性質を理解する。 ・マンガン単体や化合物の性質を理解する。 ・貴金属やタングステン、水銀の性質を理解する。 ・沈殿反応がおこる金属イオンと陰イオンの組合せについて理解する。 ・金属イオンの系統分析について、それぞれの操作の意味を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・水溶液の色から、そこに含まれる遷移元素を判断できる。 ・錯イオンの名称から化学式を、化学式から名称を答えることができる。 ・与えられた錯イオンの形を判断することができる。 ・鉄の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・水溶液の色や呈色反応から、含まれる鉄が2価なのか3価なのかを判断できる。 ・製鉄の過程について説明することができる。 ・銅の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・銅(Ⅱ)イオンの沈殿生成や錯イオン形成の反応の反応式を書くことができる。 ・銀の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・銀イオンと塩基との反応や銀イオンにアンモニア水を過剰に加えた際の反応の反応式を書くことができる。 ・亜鉛の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・亜鉛の単体や酸化物、水酸化物と酸や塩基の反応の反応式を書くことができる。 ・クロム酸イオンの反応について体系立てた知識を表現できる。 ・過マンガン酸イオンの反応について体系立てた知識を表現できる。 ・貴金属やタングステン、水銀の利用例を、性質と結びつけて理解する。 ・金属イオンの系統分析の考え方を用いて、複数の金属イオンが存在する水溶液から目的の金属を分離、確認することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・遷移元素の特徴について興味をもつ。 ・鉄の単体や化合物に興味をもつ。 ・銅の単体や化合物に興味をもつ。 ・銀の単体や化合物に興味をもつ。 ・亜鉛の単体や化合物に興味をもつ。 ・クロムとマンガン単体や化合物に興味をもつ。 ・貴金属やタングステン、水銀に興味をもつ。 ・金属イオンの分離や確認に興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
11月1週 ～ 11月2週	第4編第1👉 有機化合物の分類と分析	10	① 知識・技能 ・有機化合物の特徴について理解する。 ・有機化合物の分類について、炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。 ・有機化合物の表し方について、分子式や構造式、示性式について理解する。 ・異性体について理解する。 ・有機化合物の分析の手順や分離と精製について理解する。 ・有機化合物中の成分元素の検出について理解する。 ・元素分析の実験手順や組成式、分子式の求め方を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・有機化合物を炭素骨格や官能基の違いに基づいて分類することができる。 ・有機化合物を、分子式や構造式、示性式で表すことができる。 ・与えられ実験結果から、元素分析を行い、有機化合物の組成式や分子式を求めることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・有機化合物の特徴や分類について興味をもつ。 ・元素分析を中心とした有機化合物の分析について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	

11月3週 ～ 11月4週	第4編第2👉 脂肪族炭化水素	10	① 知識・技能 - 直鎖状のアルカンの例やアルカンの融点、沸点について理解する。 - アルカンの立体構造や構造異性体について理解する。 - アルカンに特徴的な置換反応について理解する。 - 環式のシクロアルカンについて理解する。 - 不飽和炭化水素であるアルケンやアルキンの分子式とその名称について理解する。 - アルケンの製法について理解する。 - 二重結合の存在に基づくアルケンの立体構造とシストランス異性体について理解する。 - 不飽和結合の存在に基づくアルケンやアルキンの付加反応について理解する。 - アセチレンの製法や立体構造について理解する。 ② 思考・判断・表現 - 与えられた分子式からアルカンの構造異性体やその名称を書き出すことができる。 - アルカンの置換反応の化学反応式を書くとともに生成物の名称を書くことができる。 - アルケンやアルキンの反応について、反応物や生成物の構造式やその名称を答えることができる。 - アルケンやアルキンの反応について、化学反応式を書くことができる。 - アルケンやアルキンの立体構造を判断することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - アルカンの特徴や構造、反応性について興味をもつ。 - アルケンやアルキンの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。	- テスト(小テスト、定期考査) - 実験のレポート - 応答、発表の内容	- 教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 - ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 - まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 - テスト等により、学習事項を確認する。 - 実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
12月1週 ～ 12月2週	第4編第3👉 アルコールと関連化合物	10	① 知識・技能 - アルコールの一般式や構造式、名称、分類について理解する。 - アルコールの性質、特に沸点が高いことについてその構造に基づいて理解する。 - アルコールの検出法や脱水反応について理解する。 - アルコールの酸化反応について、級数の違いによって生成物が異なることを構造式と結びつけながら理解する。 - 身近なアルコールの性質について理解する。 - エーテルの性質について理解する。 - アルデヒドやケトンの化学式や構造式、名称について理解する。 - アルデヒドの反応性、特に還元性および還元性を利用した検出法について理解する。 - ホルムアルデヒドやアセトアルデヒド、アセトンの性質や製法について理解する。 - ヨードホルム反応について理解する。 - カルボン酸の化学式や名称、分類について理解する。 - カルボン酸の性質や反応性について理解する。 - ギ酸や酢酸、無水酢酸、ジカルボン酸などの性質について理解する。 - 鏡像異性体について理解する。 - エステルの化学式や名称について理解する。 - エステルの性質や反応性、とくにけん化について理解する。 - 油脂の化学式や名称、構造、分類について理解する。 - 油脂の性質や反応性について理解する。 - セッケンの製法と洗浄作用、性質について理解する。 - 合成洗剤の性質について理解する。 ② 思考・判断・表現 - アルコールやエーテルについて、その構造式や名称を答えることができる。 - アルコールを級数や反応性に基づいて分類することができる。 - アルコールの反応について、反応物や生成物の構造式やその名称、反応式を答えることができる。 - アルデヒドやケトンの反応性に基づき、構造式や名称を書くことができる。 - カルボン酸の関わる反応の反応式を書くことができる。 - 鏡像異性体をもつ有機化合物の構造式を書くことができる。 - エステルの性質や反応性などに基づいて、その構造式や名称を書くことができる。 - 油脂の分子式や分子量を求めることができる。 - 油脂の構造を判断することで、油脂の反応における量的関係の計算をすることができる。 - セッケンの示す性質に基づき、反応式を書くことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - アルコールやエーテルの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。 - アルデヒドやケトンの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。 - カルボン酸の特徴やその構造、反応性について興味をもつ。 - 鏡像異性体の特徴やその構造、反応性について興味をもつ。 - エステルや油脂、セッケンの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。	- テスト(小テスト、定期考査) - 実験のレポート - 応答、発表の内容	- 教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 - ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 - まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 - テスト等により、学習事項を確認する。 - 実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	美術 油絵具が固まる原理

12月3週 ～ 12月4週	第4編第4 👉芳香族化合物	9	① 知識・技能 - ベンゼン環の構造との特徴について理解する。 - 芳香族炭化水素の化学式や名称について理解する。 - ベンゼンの置換反応（ハロゲン化、スルホン化、ニトロ化）について理解する。 - ベンゼンの付加反応や酸化反応について理解する。 - フェノール類と芳香族カルボン酸の化学式や名称について理解する。 - フェノール類の性質について、アルコールとの差異を確認しながら理解する。 - フェノールとカルボン酸の酸の強さについて理解する。 - フェノールの置換反応と製法について理解する。 - フタル酸とその異性体や関連する酸無水物の化学式を理解する。 - サリチル酸の構造とその反応性を理解する。 - サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸、およびそれらを用いた医薬品について理解する。 - 芳香族アミンとアゾ化合物の化学式や名称を理解する。 - アニリンの製法や検出法について理解する。 - ジアゾ化およびジアゾカップリングについて理解する。 - 芳香族のアゾ化合物は染料として用いられていることを理解する。 - 有機化合物の分離の原理について理解する。 - 有機化合物の酸性・塩基性について、その強さの順とともに理解する。 - 有機化合物の分離の例について、その実験操作の意味とともに理解する。 ② 思考・判断・表現 - 芳香族炭化水素の名称や化学式を書くことができる。 - ベンゼンの置換反応や付加反応、酸化反応を構造式を用いた化学反応式で示すことができる。 - ベンゼンの反応を体系的に示すことができる。 - フェノール類や芳香族カルボン酸が関係する反応の化学反応式を示すことができる。 - 反応性や検出法、酸の強さなどに基づいて、フェノール類や芳香族カルボン酸を区別することができる。 - 芳香族アミンやアゾ化合物が示す反応の反応式を示すことができる。 - 反応性や検出法などに基づいて、芳香族アミンやアゾ化合物を区別することができる。 - 有機化合物の分離の原理の考え方に基づいて、与えられた混合物から目的の有機化合物を分離することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - ベンゼンや芳香族炭化水素の特徴や構造、反応性について興味をもつ。 - フェノール類や芳香族カルボン酸の特徴や構造、反応性について興味をもつ。 - 芳香族アミンやアゾ化合物の特徴やその構造、反応性について興味をもつ。 - 有機化合物の分離について興味をもつ。 - 芳香族化合物の反応系統図に興味をもつ。	- テスト(小テスト、定期考査) - 実験のレポート - 応答、発表の内容	- 教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 - ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 - まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 - テスト等により、学習事項を確認する。 - 実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
1月2週	第5編第1👉 高分子化合物の性質	10	① 知識・技能 - 高分子化合物の定義や分類、構造について理解する。 - 高分子化合物の重合方法について理解する。 - 高分子化合物の特徴について理解する。 ② 思考・判断・表現 - 高分子化合物を分類することができる。 - 高分子化合物の重合の方法や分子量、特徴について判断することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 高分子化合物の性質や構造について興味をもつ。	- テスト(小テスト、定期考査) - 実験のレポート - 応答、発表の内容	- 教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 - ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 - まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 - テスト等により、学習事項を確認する。 - 実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
1月3週	第5編第2👉 天然高分子化合物	10	① 知識・技能 - 単糖、二糖、多糖に分類されるそれぞれの糖類の化学式と構造、名称、反応性について理解する。 - ヘミアセタール構造をもつと還元性を示すことを理解する。 - 二糖および多糖の加水分解について、用いる酵素なども含めて理解する。 - 多糖の構造に基づく性質について理解する。 - セルロースの誘導体について、その製法や名称、利用例を理解する。 - α-アミノ酸の示性式や特徴、検出方法、反応性について理解する。 - 双性イオンと等電点の考え方を理解する。 - アミノ酸がモノマーであり、そのポリマーがタンパク質やペプチドであることを理解する。 - タンパク質の構造や分類、性質、検出方法について理解する。 - 酵素のはたらきや反応条件について、タンパク質の性質などもふまえながら理解する。 - 核酸を構成する糖と塩基、リン酸について理解する。 - DNAとRNAの構造やその違いについて理解する。 - DNAの二重らせん構造において、塩基対どうしが水素結合していることを理解する。 ② 思考・判断・表現 - 化学式や名称、構造、性質に基づいて糖類を分類することができる。 - 糖類の加水分解の際に用いる酵素を適切に判断することができる。 - 糖類が関わる反応の反応式に基づいて量的関係の計算ができる。 - アミノ酸の構造式を書くことができる。 - アミノ酸の構造に基づいてその性質を判断することができる。 - アミノ酸の関わる反応の反応式を書くことができる。 - アミノ酸やタンパク質の構造や性質をふまえ、量的計算を行うことができる。 - アミノ酸の検出方法をふまえ、タンパク質に含まれるアミノ酸を判断することができる。 - DNAやRNAを構成する塩基や糖の種類を判断することができる。 - DNAやRNAの違いを判断することができる。	- テスト(小テスト、定期考査) - 実験のレポート - 応答、発表の内容	- 教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 - ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 - まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 - テスト等により、学習事項を確認する。 - 実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	

			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・糖類の特徴やその構造，反応性，利用例について興味をもつ。 ・アミノ酸やタンパク質の特徴やその構造，反応性について興味をもつ。 ・核酸の特徴やその構造について興味をもつ。	・授業プリントの内容 ・授業への取り組み、応答、発表の内容 ・成績の推移			
1月4週	第5編第3 🍌 合成高分子化合物	10	① 知識・技能 ・合成高分子化合物の分類について理解する。 ・ナイロン66，ナイロン6，ポリエチレンテレフタレート，ポリエチレン，ビニロンなどの重合について理解する。 ・ナイロン66，ナイロン6，ポリエチレンテレフタレート，ポリエチレン，ビニロンなどの利用例について理解する。 ・熱可塑性樹脂および熱硬化性樹脂の名称や単量体，利用例，性質を理解する。 ・フェノール樹脂の合成について，反応の条件や中間生成物（ノボラックやレゾール）を理解する。 ・イオン交換樹脂について，その構造と性質，利用例を理解する。 ・天然ゴムの構造の特徴について理解する。 ・加硫による構造の変化について理解する。 ・合成ゴムの名称と単量体，利用例，性質について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・ナイロン66，ナイロン6，ポリエチレンテレフタレート，ポリエチレン，ビニロンなどの合成繊維の構造式を書くことができる。 ・構造式に基づいて，合成繊維に関する量的計算を行うことができる。 ・熱可塑性樹脂の構造式を書くことができる。 ・フェノール樹脂の合成において，反応条件と中間生成物を関連付けて判断することができる。 ・イオン交換樹脂の原理の理解をもとに，イオン交換樹脂の関わる量的計算を行うことができる。 ・イソプレンと天然ゴムの構造式を書くことができる。 ・ジエン系ゴムの構造式を書くことができる。 ・構造式や反応式に基づいて，量的計算を行うことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・合成繊維の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。 ・合成樹脂の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。 ・天然ゴムや合成ゴムの特徴や構造，利用例，性質について興味をもつ。	・テスト(小テスト、定期考査) ・実験のレポート ・応答、発表の内容 ・実験レポートの内容 ・発表の内容 ・テスト(小テスト、定期考査)	・教科書等を参考に授業プリントに取り組む。 ・ペアワーク、グループワークでの対話により、思考を深める。 ・まとめた内容を応答や発表により、アウトプットする。 ・テスト等により、学習事項を確認する。 ・実験の際、方法、実施、レポート作成、発表を行う。	ペアワーク グループワーク 応答、発表	
指導時間数の計		175					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（理科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
科目名		単位数	課程・学科・学年			使用教科書名(出版社)		
生物		3	全日制・普通科・3学年(理系)			生物702「生物」実教出版		
科目の目標		・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解に深め、科学的な自然観を育成する。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第3章 遺伝情報の発現と発生 2節 発生と遺伝子発現	12	① 知識・技能 動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解している。 ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解している。 誘導のしくみを理解し、動物の器官が連鎖的に形成されていくことを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・ショウジョウバエの頭尾軸決定に関する実験結果をもとに、動物の発生において、軸の形成には卵に蓄積された母性因子が関与していることを理解している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・発生のしくみについて、誘導現象など代表的な例について理解しようとする。 ・実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程を考察、理解しようとする。		動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解している。 ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解している。誘導のしくみを理解し、動物の器官が連鎖的に形成されていくことを理解している。 (定期考査・課題提出) ・ショウジョウバエの頭尾軸決定に関する実験結果をもとに、動物の発生において、軸の形成には卵に蓄積された母性因子が関与していることを理解している。 (発問評価・課題提出) ・発生のしくみについて、誘導現象など代表的な例について理解しようとする。 ・実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程を考察、理解しようとする。 (発問評価・授業態度)	・受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができることを重点的に理解させる。 ・発生の過程では代表的な動物としてカエルを例にあげ、ヒトについても基本的なしくみは同じであることを理解させる。 ・器官形成は代表的なものについて把握させ、理解させる。 ・発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。	実験・発表	
5月 6月	3節 遺伝子を扱う技術	15	① 知識・技能 ・電気泳動の原理を理解し、実験によって、設定したDNA断片の長さに応じた適切な泳動結果を得ることができる。 バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 バイオテクノロジーについて関心をもち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。		・電気泳動の原理を理解し、実験によって、設定したDNA断片の長さに応じた適切な泳動結果を得ることができる。 (実験評価) バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解している。 (定期考査) ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。 (発問評価・課題提出) バイオテクノロジーについて関心をもち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。 (発問評価・授業態度)	・バイオテクノロジーについては、遺伝子操作が様々な分野で研究手法として用いられていることを、事例を通して把握させる。 ・遺伝子組換えや組織培養、核移植、細胞融合などの技術が医療や有用物質の合成、作物の品種改良などに利用されていることを事例を通して把握させる。 ・バイオテクノロジーの利用については、まだ様々な課題があるので、その推進に当たっては十分な配慮が大切であることも理解させる。	実験・発表	

7月 9月	第4章 生物の環境応答 1節 動物の反応	17	① 知識・技能 ・神経の構造と興奮の発生・伝導・伝達の関係の学習から、動物が能動的に外部環境に反応することを理解している。 ・脳などの中枢神経系の働きを理解し、脊ついで動物のからだが巧みに調節されていることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・眼を中心とした受容器の構造と機能に関心をもって学習し、光量調節や遠近調節などのしくみを説明できる。	・神経の構造と興奮の発生・伝導・伝達の関係の学習から、動物が能動的に外部環境に反応することを理解している。 ・脳などの中枢神経系の働きを理解し、脊ついで動物のからだが巧みに調節されていることを理解している。 (定期考査) ・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。 (発問評価・課題提出) ・眼を中心とした受容器の構造と機能に関心をもって学習し、光量調節や遠近調節などのしくみを説明できる。 (発問評価・授業態度)	・刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握させる。 ・刺激を受容する器官については、代表的な例を中心に理解させる。 ・神経の興奮では、興奮の発生・伝導・伝達を理解させる。 ・脳のつくりでは、大脳、間脳、中脳、小脳、延髄に分けられることや灰白質や白質などについて理解させる。 ・余裕があれば、活動電位が発生し、伝わるしくみについてイオンベースでの解説も行う。	発表	
9月	2節 動物の行動	15	① 知識・技能 ・動物の行動は、刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・動物の行動と刺激の受容と反応を理解しようとする。	・動物の行動は、刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを理解している。 (定期考査) ・学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明することができる。 (発問評価・定期考査) ・動物の行動と刺激の受容と反応を理解しようとする。 (発問評価・授業態度)	・動物の行動は、代表例を探究的に考察させる。	発表	
10月 11月	3節 植物の成長と環境応答	18	① 知識・技能 ■ 植物が外部の環境に影響されてみせる様々な現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。 ・植物の場合は、植物ホルモンの働きなどによって、環境に対する反応や調節が行われることを具体的に理解している。 ・植物の生殖細胞がつくられる過程を理解している。 ・代表的な植物である被子植物などについて、配偶子のでき方を理解している。また、種子の形成に関連させて胚の発生の過程も理解している。 ② 思考・判断・表現 ・伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧みに制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ■ 植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。	■ 植物が外部の環境に影響されてみせる様々な現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。 ・植物の場合は、植物ホルモンの働きなどによって、環境に対する反応や調節が行われることを具体的に理解している。 ・植物の生殖細胞がつくられる過程を理解している。 ・代表的な植物である被子植物などについて、配偶子のでき方を理解している。また、種子の形成に関連させて胚の発生の過程も理解している。 (定期考査・課題提出) ・伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧みに制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。 (発問評価・課題提出) ■ 植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。 (発問評価・授業態度)	・環境によって制御される、植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などの現象を理解させる。 ・光屈性のしくみの解明を通じて、それらの現象が環境との関連でどのように制御されているのか、それが解明されてきた過程を重視して、探究的に考察させる。	発表	
12月	第5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集	15	① 知識・技能 ・ウキクサを用いた実験から、個体群がどのように成長するかを理解することができる。また、個体群の密度の変化が、個体数や個体の形質に影響を及ぼすことを理解している。 ・異なる2種の個体群間の関係、さらに、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・2種の生物の個体数変動のグラフから、被食者と捕食者の個体数が周期的に変動することを見いだして理解することができる。	・ウキクサを用いた実験から、個体群がどのように成長するかを理解することができる。また、個体群の密度の変化が、個体数や個体の形質に影響を及ぼすことを理解している。 ・異なる2種の個体群間の関係、さらに、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を理解している。 (定期考査・発問評価) ・2種の生物の個体数変動のグラフから、被食者と捕食者の個体数が周期的に変動することを見いだして理解することができる。 (定期考査・課題提出)	・生物と環境との関わりについて理解させる。 ・自然界における生物についての見方や考え方を身につけさせる。 ・密度効果がない場合とある場合とでは個体群の成長の様式に違いがあることを理解させる。 ・安定した個体群が維持されるしくみについては、個体群内部におけるしくみや他の個体群との関係を適応戦略などの観点から理解させる。 ・生物群集内での個体群間の相互作用などを理解させる。 ・生物群集を構成する様々な個体群がそれぞれ特有の生態的地位を占め、相互に関係を保つことにより、生物群集が維持されていることを理解させる。 ・個体群の成長の様式や個体群が様々な環境に適応して維持されるしくみについて平易	発表	

			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。	・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。 (発問評価・授業態度)	に扱う。		
1月	2節 生態系	18	① 知識・技能 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現することができる。 ・窒素循環については、植物の窒素同化のしくみもあわせて理解している。また、脱窒や植物と根粒菌との共生についても理解してる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・それまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。	・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。 (定期考査・発問評価) ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現することができる。 ・窒素循環については、植物の窒素同化のしくみもあわせて理解している。また、脱窒や植物と根粒菌との共生についても理解してる。 (定期考査・課題提出) ・それまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。 (発問評価・授業態度)	・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 ・食物網や物質循環・エネルギーの流れなどについては代表的な例を通して扱う。	発表	地理総合 第2編 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力
指導時間数の計		105					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（理科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
物理	3	全日制・普通科・3学年(理系)	改訂版 物理(数研出版)

科目の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
-------	--

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な 資質・能力の育成 に関わる他教科等 との関連
4月 ～ 5月	第3編 波 第1章 波の伝わり方 1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 3 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	23	① 知識・技能 波の伝わり方についてわかる。	定期考査 小テスト行 動の観察	波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを確認させ、波を表す要素（振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さ）についても確認させる。波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者が受ける振動数は波源本来の振動数とは異なる。これは音波に限らず、水面波や光など、あらゆる波について起こる現象であることを理解させる。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 正弦波の性質と法則について考えることができる。	定期考査 実験レポート 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 波の性質をさらに掘り下げて学習し、平面や空間を伝わる波の様子や、その性質について調べようとする。	行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）			
6月 ～ 7月	第3章 光 1 光の性質 2 レンズと鏡 3 光の干渉と回折 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー	23	① 知識・技能 波の干渉と回折がわかる。波の反射と屈折がわかる。静電気の種類と性質についてわかる。電界とクーロンの法則についてわかる。コンデンサーの性質がわかる。	定期考査 小テスト行 動の観察	光にも反射・屈折の法則が成りたつことを理解させ、みかけの深さや全反射について、その機構をしっかりと理解させる。一様な電場内の電場と電位差との関係などから、コンデンサーの極板に蓄えられる電気量が電位差に比例することが導かれることを示し、電気容量を理解させる。また極板間に挿入された誘電体のはたらき、および誘電率、比誘電率を理解させる。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 ホイヘンスの原理、波の反射・屈折について考えることができる。静電気の性質と静電誘導について考えることができる。	定期考査 実験レポート 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 光の進み方や波としての光の性質を調べようとする。静電気のはたらきについて定性的・定量的に検討を加え、静電気に関して興味を持ち調べようとする。	行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）			
9月 ～ 10月	第2章 電流 1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体 第3章 電流と磁場 1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 自己誘導と相互誘導 3 交流の発生 4 交流回路 5 電磁波	25	① 知識・技能 オームの法則とジュール熱についてわかる。ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動についてわかる。	定期考査 小テスト行 動の観察	電流の向きと電流の大きさについてしっかりと理解させる。電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則をきちんと理解させる。電流が磁場から受ける力について理解させ、その力の向きをしっかりと把握させる。磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について理解させる。抵抗に直列につないだコイルやコンデンサーに加わる電圧の位相について、実験を通して理解させる。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 電流の性質を理解し、電力と熱の関係について考えることができる。ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。	定期考査 実験レポート 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 電気量と電流の関係、抵抗での発熱について調べようとする。磁界内を運動する荷電粒子が受ける力とその運動について興味を持ち調べようとする。	行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）			
11月 ～ 12月	第5編 原子 第1章 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 X選 4 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1 原子の構造とエネルギー準位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子	23	① 知識・技能 電子の電荷と質量についてわかる。粒子の波動性がわかる。放射線と原子核についてわかる。原子核反応と核エネルギーについてわかる。	定期考査 小テスト行 動の観察	真空放電の実験から、陰極線の性質を理解させ、またその性質から陰極線の本体が電子であることを理解させる。光電効果の式 $KO = h\nu - W$ から、光電効果の現象が定性的にも定量的にも説明できることを学習させる。光の粒子性に対比しながら、電子に波動性があることを理解させる。 α 粒子と空気中の窒素原子核との衝突により、原子核反応が生じていることにふれ、原子核反応式を示す。原子核反応の前後で質量数の和と原子番号の和はそれぞれ変わらないことを理解させる。	発表	
			② 思考・判断・表現 光電効果と光子仮説について考えることができる。物質波と物質の波動と粒子の二重性について考えることができる。質量とエネルギーの等価性と、原子核反応について考えることができる。	定期考査 実験レポート 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 電子と、その質量、電荷の発見の歴史について調べようとする。光が粒子の性質をもつことを調べようとする。原子核反応と核エネルギーについて興味を持ち調べようとする。	行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）			

1月	物理学が築く未来	11	① 知識・技能 これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることについてわかる。	定期考査 小テスト行動の観察	これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることを、具体例を通して理解させる。	グループワーク レポート作成 ポスター作成発表表	
			② 思考・判断・表現 物理学の発展と科学技術の進展に対する興味を喚起するような成果を理解することができる。	定期考査 実験レポート 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 物理学の発展と成果が科学技術の基盤をつくり、それらが様々な分野において応用され、未来の社会形成、未知の世界の探究に大きな役割を果たしていることに興味を持ち調べようとする。	行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）			
指導時間数の計		105					

2月	Lesson 9 English, Always Growing	14	英語の語彙の歴史と新語の形成の仕組みについて、話や文章の展開に注意しながら、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、最近日本語に入った言葉とその意味について、情報や自分の考えなどを論理的に詳しく話したり書いたりして伝える。	英語の語彙の歴史と新語の形成の仕組みについて、「列挙」を表すディスコースマーカの理解を基に、話や文章の展開に注意しながら、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、最近日本語に入った言葉とその意味について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理的に詳しく話したり書いたりして伝えることができる。	・Lesson 9の課末 Actionにおける発表用の原稿(およびワークシート) ■ Part確認テスト、中間・期末考査、評価問題	
3月	Lesson 10 Understanding the Culture of Dog	8	イヌの習性とその文化について、話や文章の展開に注意しながら、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、イヌとネコのどちらがよいかについて、情報や自分の考えなどを論理的に詳しく話したり書いたりして伝える。	イヌの習性とその文化について、「追加」を表すディスコースマーカの理解を基に、話や文章の展開に注意しながら、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、ペットとして飼うならイヌとネコのどちらがよいかについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理的に詳しく話したり書いたりして伝えることができる。	・Lesson10の課末 Actionにおける発表用の原稿（およびワークシート） ■ Part確認テスト、中間・期末考査、評価問題	
指導時間数の計		140				

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（外国語科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようにするための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる				
教科の目標		日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、1. 必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。2. 必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。3. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝え合ったりすることができる。4. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。5. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。				
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)	
論理・表現Ⅲ		3	全日制・普通科・3学年		APPLAUSE(開隆堂)	
CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標		日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、次のことができる。 1. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができる。 2. ディベートやディスカッションなどの活動をとおして、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 4. スピーチやプレゼンテーションなどの活動をとおして、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 5. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。 6. 多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成 に関わる他教科等との関連
4月 3週 ～4週	What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays?	8	予定／意図／確信／希望・願望を表す表現の用法を理解している。 予定／意図／確信／希望・願望を表す表現の用法の理解をもとに、ゴールデンウィークの計画について紹介する技能を身につけている。	予定／意図／確信／希望・願望の表現をペアワーク、グループワークで覚える。ゴールデンウィークの計画について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・ゴールデンウィークの計画に関する発表（第4時）	LHR
5月 1週 ～3週	What Do You Want to Do in the Future?	8	好き・嫌い／得意・不得意／個人的感想を表す表現の用法を理解している。 好き・嫌い／得意・不得意／個人的感想を表す表現の用法の理解をもとに、将来就きたい職業とその理由や重視するポイントについて紹介する技能を身につけている。	好き・嫌い／得意・不得意／個人的感想を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 好き・嫌い／得意・不得意／個人的感想を表す表現の用法の理解をもとに、将来就きたい職業とその理由や重視するポイントについて、自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・将来就きたい職業とその理由の発表（第4時）	LHR
5月 4週 ～5週	Suggest a New Style of Traveling	8	提案・助言／必要性・義務／勧誘／受諾・辞退を表す表現の用法を理解している。 提案・助言／必要性・義務／勧誘／受諾・辞退を表す表現の用法の理解をもとに、エコツーリズムの必要性や具体的方法などについての確に発表する技能を身につけている。	提案・助言／必要性・義務／勧誘／受諾・辞退を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 提案・助言／必要性・義務／勧誘／受諾・辞退を表す表現の用法の理解をもとに、エコツーリズムの必要性や具体的方法などについて自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・エコツーリズムの必要性や具体的方法の発表（第4時）	
6月 1週 ～3週	Communicating Your Requests	8	依頼／要請／許可を表す表現の用法を理解している。 依頼／要請／許可を表す表現の用法の理解をもとに、プレゼンテーション大会に関する要望などについてEメールを作成する技能を身につけている。	依頼／要請／許可を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 依頼／要請／許可を表す表現の用法の理解をもとに、プレゼンテーション大会に関する要望などについてEメールを作成し、聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・プレゼンテーション大会に関する要望の発表（第4時）	English Communication Ⅲ
6月 1週 ～3週	Thank You for Your Support	8	感謝／祝福・喜び／同情／心配・懸念を表す表現の用法を理解している。 感謝／祝福・喜び／同情／心配・懸念を表す表現の用法の理解をもとに、感謝や祝福などの気持ちについて手紙で伝える技能を身につけている。	感謝／祝福・喜び／同情／心配・懸念を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 感謝／祝福・喜び／同情／心配・懸念を表す表現の用法の理解をもとに、感謝や祝福などの気持ちについて手紙を作成し、聞き手に分かりやすく発表する。	・活動の観察 ・感謝や祝福などの気持ちの発表（第4時）	
6月 3週 ～7月 3週	How to Complain Politely	8	苦情／謝罪／譲歩を表す表現の用法文を理解している。 苦情／謝罪／譲歩を表す表現の用法の理解をもとに、自分が置かれている状況や要望について伝える技能を身につけている。	苦情／謝罪／譲歩を表す表現の用法文をペアワークやグループワークで覚える。 苦情／謝罪／譲歩を表す表現の用法の理解をもとに、自分が置かれている状況や要望について自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・自分が置かれている状況や要望の発表（第4時）	
9月 1週 ～3週	My Specialty	8	時間的順序／空間的配列・方向／数量（比較）／方法・様態を表す表現の用法を理解している。 時間的順序／空間的配列・方向／数量（比較）／方法・様態を表す表現の用法の理解をもとに、自分が得意な料理のレシピを発表する技能を身につけている。	時間的順序／空間的配列・方向／数量（比較）／方法・様態を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 時間的順序／空間的配列・方向／数量（比較）／方法・様態を表す表現の用法の理解をもとに、自分が得意な料理のレシピを自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・自分が得意な料理のレシピの発表（第4時）	家庭科 調理
9月 4週 ～10月 3週	My Special People and Places	8	人物や事物に関する描写・説明を表す表現の用法を理解している。 人物や事物に関する描写・説明を表す表現の用法の理解をもとに、自分が行きたい国などについて理由を挙げながら発表する技能を身につけている。	人物や事物に関する描写・説明を表す表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 人物や事物に関する描写・説明を表す表現の用法の理解をもとに、自分が行きたい国などについて理由を挙げながら自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・自分が行きたい国などについて理由を挙げながらの発表（第4時）	
10月 3週 ～11月 1週	Paragraph Writing	10	パラグラフの構造や特徴を理解している。 パラグラフの構造や特徴の理解をもとに、共働きの家庭について、順序立ててパラグラフを書く技能を身につけている。	パラグラフの構造や特徴をペアワークやグループワークで覚える。 パラグラフの構造や特徴の理解をもとに、共働きの家庭について、順序立てて自分の考えを読み手にわかりやすくパラグラフを書く。	・活動の観察 ・共働きの家庭について、順序立てて自分の考えを読み手にわかりやすくパラグラフを書く英文文（第6時）	
11月 2週 ～5週	Presentation	10	自分の考えを、プレゼンテーションで使用するスライドにまとめる方法を理解している。 自分の考えを、プレゼンテーションで使用するスライドにまとめる方法の理解をもとに、SNSについての的確に説明する技能を身につけている。	自分の考えを、プレゼンテーションで使用するスライドにまとめる方法をペアワークやグループワークで覚える。 自分の考えを、プレゼンテーションで使用するスライドにまとめる方法の理解をもとに、SNSについて自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・SNSについて自分の考えを聞き手にわかりやすく発表（第6時）	論理国語
12月 1週 ～3週	Discussion	10	ディスカッションで使用する表現の用法を理解している。 ディスカッションで使用する表現の用法の理解をもとに、介護ロボットについての自分の考えをまとめ、発表する技能を身につけている。	ディスカッションで使用する表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 ディスカッションで使用する表現の用法の理解をもとに、介護ロボットについての自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・介護ロボットについての発表（第6時）	公共
1月 2週 ～4週	Debate	11	ディベートで使用する表現の用法を理解している。 ディベートで使用する表現の用法の理解をもとに、賛成派あるいは反対派の立場からガソリン車の生産停止についてディベートをする技能を身につけている。	ディベートで使用する表現の用法をペアワークやグループワークで覚える。 ディベートで使用する表現の用法の理解をもとに、賛成派あるいは反対派の立場からガソリン車の生産停止について自分の考えを聞き手にわかりやすく発表する。	・活動の観察 ・賛成派あるいは反対派の立場からガソリン車の生産停止についての発表（第6時）	
指導時間数の計		105				

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（外国語科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一個人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる					
教科の目標		○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)					
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
実践英語		2	全日制・普通科・3学年		NEWSBREAKS for STANDARD(エミル出版)		
CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標		聞くこと(L)：身近な話題や社会的な話題に関する対話やまとまりのある英文を聞き取り、その概要や要点を理解することができる。読むこと(R)：身近な話題や社会的な話題に関する会話や説明、資料などを読んで、概要や要点を把握することができる。 話すこと(やりとり)(SI)：身近な話題や社会的な話題について、相手に応答しながら会話を続けたり、情報や意見を交換したりすることができる。 話すこと(発表)(SP)：身近な話題や社会的な話題について、相手に分かりやすいように考えを整理して、概要や要点を説明したり、自分の意見を話したりすることができる。書くこと(W)：身近な話題や社会的な話題について、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。					
時期/月/週/日	単元・題材名	指導時数	単元の目標	主な言語活動等		評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	1 Covid-19 and the Global Economy	5	・新型コロナウイルスと世界経済に与えた影響に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅰ	「公共」「政治・経済」の経済活動の分野と関連がある。
5月	2 Questions about the Pandemic	5	・新型コロナウイルスの感染爆発と日本の医療制度に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅰ	
6月	3 The New President and Vice President	5	・アメリカの新しい大統領と副大統領に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅱ	「公共」「政治・経済」の経済活動の分野と関連がある。
6月	4 QR Codes	6	・QRコードの歴史や特徴、利用法に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅱ	「情報活用能力」の育成の観点から「情報」と関連がある。
7月	5 Calling for Change	6	・人種差別・抗議運動についての英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・課題に対する解決策を考え、自分の意見をまとめ、伝えたり発表したりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら本文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・ペアやグループで問題の解決方法などについて話し合い、考えをまとめ発表する。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅲ	「公共」「世界史研究」における「人権問題」の分野と関わりがある。また、生命や多様性の尊重の観点から「道徳」と関連がある。
9月	6 The Coronavirus Vaccines	5	・新型コロナウイルスのワクチンに関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅲ	「心身の健康保持増進」の観点から「保健体育」と関連がある。
9月	7 All About Stocks	5	・株と日本経済に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅲ	「公共」「政治・経済」の経済活動の分野と関連がある。
10月	8 Achieving Net Zero	6	・二酸化炭素の「排出量実質ゼロ」に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・課題解決のために自分ができることを考え、自分の意見やその理由を論理的に伝えたり発表したりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら本文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・ペアやグループで問題の解決方法などについて話し合い、考えをまとめ発表する。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅲ	「地球的課題と国際協力」の分野で「公共」「地理総合」「総合的な学習の時間」と関連があり、問題発見・解決能力の育成に関わる。
10月	9 Chocolate Without Child Labor	6	・ガーナにおけるチョコレートプロジェクトと児童労働に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・課題解決のために自分ができることを考え、自分の意見やその理由を論理的に伝えたり発表したりすることができる。	・ディスコースマーカーや文構造、パラグラフの展開に注意しながら本文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・ペアやグループで問題の解決方法などについて話し合い、考えをまとめ発表する。		・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・考査Ⅳ	「総合的な探究の時間」のSDGs学習と関連があり、問題発見・解決能力の育成に関わる。

11月	10 Rewriting DNA	5	・ゲノム編集に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカ―や文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・調査IV	DNAの内容は「生物」、ゲノム編集は「化学」「公共」と関連がある。
11月	11 A World Without Nuclear Weapons	5	・核兵器に関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・課題に対する解決策を考え、自分の意見をまとめ、伝えることができる。	・ディスコースマーカ―や文構造、パラグラフの展開に注意しながら本文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・ペアやグループで問題の解決方法などについて話し合い、考えをまとめ発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・調査IV	核兵器や原爆の内容を扱っているため、「歴史総合」や「公共」と関連がある。
12月	12 The Internet in Space	5	・衛星インターネットに関する英文を読み、事実を整理・理解し、概要や要点をまとめることができる。 ・トピックについて、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話したり書いたりすることができる。	・ディスコースマーカ―や文構造、パラグラフの展開に注意しながら英文を読み、概要や要点を捉える。 ・文のつながりや文章全体の構成などに注意して、英文の内容を要約する。 ・トピックについて、自分の考えや意見を述べたり発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・課題テスト	「情報活用能力」の育成の観点から「情報」と関連がある。
1月	テーマ演習	6	日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査し、自分の意見を英語で述べることができる。	・日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査する。 ・調査した内容を具体的に説明する。 ・相手に分かりやすいように考えを整理して、自分の意見を話したり書いたりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト ・課題テスト	
指導時間数の計		70				

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（保健体育科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
体育		3	全日制・普通科・3学年					
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第2週	体づくり運動	15	① 知識・技能 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること。		実技テスト	グループ活動 全体活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。		授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。		授業の様子 学習ノート			
5月 第3週 ～ 6月 第2週	ダンス	15	① 知識・技能 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。		実技テスト	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。		授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。		授業の様子 学習ノート			
6月 第3週 ～ 7月 第1週	体育理論	9	①知識 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。※体育理論については「技能」に係る評価の対象がないことから、「技能」の評価規準は設定していない。		テスト	・講義 ・ワークシート作業（課題の整理） ・小テスト	自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などを選択し実践、演技や発表を通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった課題解決の方法を活用するなど、知識を実践に活用する学習活動を充実すること。	
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見しよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。		授業の様子 ワークシート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。		授業の様子 ワークシート			
7月 第2週 ～ 9月 第4週	球技(ベースボール型)	21	① 知識・技能 ベースボール型は、易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。		実技テスト	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。		授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。		授業の様子 学習ノート			

10月 第1週 ～ 11月 第2週	球技(ゴール型)	18	① 知識・技能 ゴール型は、安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。	実技テスト	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	授業の様子 学習ノート			
11月 第3週 ～ 12月 第3週	陸上競技(長距離走)	15	① 知識・技能 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走では、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。	実技テスト	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。	授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、ことなどや、健康・安全を確保すること。	授業の様子 学習ノート			
12月 第2週 ～ 1月 第4週	球技(選択)	12	① 知識・技能 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。	実技テスト	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
			② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	授業の様子 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	授業の様子 学習ノート			
指導時間数の計		105					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（数学科）

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能) ○論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考・判断・表現等)□ ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に取り組む態度等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学B		2	全日制・普通科・3学年(文系)		数学B Standard(東京書籍)		
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2～4週 6日 5月 2,4週 4日 6月 1～3週 6日 7月 2～3週 4日 9月 1～4週 8日 10月 1～4週 8日	1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	36	① 知識・技能 数列における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 数列を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 数列における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○数列の問題演習を通じて数列の性質を理解する。 ○いろいろな数列の問題演習を通じていろいろな数列の性質を理解する。 ○漸化式と数学的帰納法の問題演習を通じて漸化式と数学的帰納法の性質を理解する。	○数列の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○数列の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○数列の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
11月 1～4週 8日 12月 1～3週 6日 1月 2～4週 6日	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布 3節 正規分布 4節 統計的な推測	34	① 知識・技能 統計的な推測における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。 ② 思考・判断・表現 統計的な推測を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 統計的な推測における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等 行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○標本調査の問題演習を通じて標本調査の性質を理解する。 ○確率分布の問題演習を通じて確率分布の性質を理解する。 ○正規分布の問題演習を通じて正規分布の性質を理解する。 ○統計的な推測の問題演習を通じて統計的な推測の性質を理解する。	○統計的な推測の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○統計的な推測の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○統計的な推測の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
指導時間数の計		70					

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画（美術科）

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる						
教科の目標		○美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。（知識及び技能） ○美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。（思考力、判断力、表現力等） ○主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）						
科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
美術Ⅱ		2	全日制・普通科・3学年(文系)		116-日文・美Ⅱ－304			
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、創造的な表現を伸ばし、美術文化についての理解を深める。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名		単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4~7月	校内写生(絵画)	26	① 知識・技能 ○空気遠近法・一点透視、二点透視図法（知識） ○それぞれの技法を作品制作に活かすことができる（技能）		作品の提出	これまでの高校生活を振り返り、自身の感情を込めた作品の創作を目指す。	描き上がった作品の鑑賞を通し、それぞれの作品の良さを認め、自分の絵の良さや特徴に気づく。	一点透視図法、二点透視図法などは、数学の作図にも通じる。
			② 思考・判断・表現 ○構図や描き方などに、これまで学んだ様々なアクリル画法を取り入れ、適切に使用しているか（思考・判断） ○色使いや丁寧な描き込みができているか（表現）		作品の提出 提出作品の感想・振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ○思い出に残っている校舎の様子をよく観察し、意欲的に制作に取り組んでいるか（態度）		学習状況の観察			
9~11月	木彫レリーフ(彫刻)	24	① 知識・技能 ○彫刻刀の種類・働きや、木の特徴への理解があるか（知識） ○木の特徴に合った適当な彫刻刀を使用できる（技能）		作品の提出	木彫板にレリーフを彫る。半立体での表現の幅について作品鑑賞などを通して学び、構想を練る。刃物や木材の特性を理解し、活かすことで個性的な作品を制作する。	出来上がった作品の鑑賞を通し、それぞれの作品の良さを認め、自分の作品の良さや特徴に気づく。	
			③思考・判断・表現 ○木の特徴を活かしつつ、自分らしいデザインを考案することができる（思考・判断） ○木目を活かし、美しい彫りが出来る（表現）		作品の提出 提出作品の感想・振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ○彫刻刀以外の棒ヤスリや紙ヤスリなども積極的に利用し、自分の作品に愛着を持って制作が出来る（態度）		学習状況の観察			
11~1月	油絵制作(絵画)	20	①知識・技能 ○初めて使う油絵画材について学ぶ（知識） ○画材を適切に使い、自分らしい作品の制作に取り組むことが出来る（技能）		作品の提出	鑑賞で学んださまざまな技法や表現方法などを利用し、創造性を広げながら構想を練る。初めて使う油絵画材の使い方を学び、積極的に創意工夫を繰り返しながら制作に取り組んでいく。	描き上がった作品の鑑賞を通し、それぞれの作品の良さを認め、自分の絵の良さや特徴に気づく。	
			② 思考・判断・表現 ○油絵に合った題材・テーマを発想し、それに相応しい構図、技法で作品を仕上げる事が出来る（思考・判断・表現）		作品の提出 提出作品の感想・振り返り			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ○様々な技法に意欲的に取り組み、高校美術最後の作品にふさわしい、見応えのある作品に仕上げる事が出来る。（態度）		学習状況の観察			
指導時間数の計		70						

茨城県立伊奈高等学校 年間指導計画【フードデザイン】(文系) (家庭科)

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一個の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付けるようにする。＜何を理解しているか、何ができるか＞(知識及び技能) ②家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。＜理解していること・できることをどう使うか＞(思考力、判断力、表現力等) ③様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会を参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。＜どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか＞(学びに向かう力、人間性等)

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
フードデザイン		2	全日制・普通科・3学年(文系)		フードデザイン (7 実 教 家 庭 703)実教出版		
科目の目標			○栄養・食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○(どのように学ぶのか)食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○(何ができるようになるのか)食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4 月 2 週 日～ 4 週 目	第2章「栄養素のはたらきと食事計画」 1節 栄養素のはたらき 1項 食物の摂取と栄養 2項 炭水化物 3項 脂質 4項 たんぱく質 5項 ミネラル 6項 ビタミン 7項 その他の食品成分 8項 エネルギー	6	① 知識・技能 ○炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミンなどの類とはたらきについての知識を習得することができる。 消化吸収について理解できる。 ○食品ごとのアミノ酸スコアを計算することができる。 ○機能性成分にはどのような効果があり、どのような食品に含まれているのか理解できる。 ○1日に必要なエネルギー量を求めることができる。	ワークシート 学習ノート 定期考査Ⅱ 定期考査Ⅲ	○人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され活用されていくかを把握させる。 ○各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解させる。 ○アミノ酸評点パターン、アミノ酸スコアについて理解させる。 ○水とその他の物質について、役割やはたらきを理解させる。 ○エネルギーの摂取量と必要なエネルギー量の算出方法を理解させる。	グループ討議	保健
			② 思考・判断・表現 ○からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる。	ワークシート 学習ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ○炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミンなどの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみ関心を持とうとしている。 ○機能性成分にはどのようなものがあるかを知らうとしている。	ワークシート 学習ノート 定期考査Ⅲ 定期考査Ⅳ			
5 月 6 月	第6章「フードデザイン実習」 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成の条件 2項 日常食の献立作成の手順 調理実習 実習1 日本料理① 実習2 西洋料理① 実習3 中華料理① 実習4 桃の節句 実習5 こどもの日 実習6 一人暮らしの食事の工夫	16	① 知識・技能 ○基礎的な調理題材について計画し、調理することができる。 ○食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法などの一連の流れを計画し実践ができる。 ○具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 ○日本料理、西洋料理及び中国料理の基本的なテーブルセッティング、テーマにふさわしいテーブルコーディネートおよびサービスの方法を理解できる。	ワークシート 定期考査Ⅱ 定期考査Ⅲ	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ○基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはらせる。 ○栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ○米および小麦粉を使った諸国の料理を知り、それぞれの国の食文化を理解するとともに、料理がつくれる。	調理実習の係決め 調理実習における協働作業	
			② 思考・判断・表現 ○具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ○作成した献立に適した食品を選択することができる。 ○食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境を判断することができる。	学習ノート ワークシート 調理実習の記録			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ○調理実習の記録をまとめることができる。 ○班員と協力して時間内に準備・調理・後片付け・試食をしようとしている。 ○食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。	ワークシート 調理実習の記録			

7月1週目	第1章「食生活と健康」 1節 食事の意義と役割 1項 からだをつくる食事 2項 食生活を豊かにする食事 2節 食をとりまく現状 1項 栄養摂取の変化と現状 2項 生活習慣病と欠食 3項 ライフスタイルの変化 4項 食料自給率と食品のロス 5項 食品の安全性と環境の変化	2	① 知識・技能 ○食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることが理解できる。 ○日本の食生活の現状について、問題点が理解できる。 ○現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ○班闘技の結果をまとめ、スライドなどでプレゼン（説明）することができる。	ワークシート 学習ノート 定期考査Ⅲ 定期考査Ⅳ	○食事の基本的な意義を理解させる。 ○家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を再確認させる。 ○現代の食に関する問題点を把握させる。 ○健康維持のため食事がどのように大切かを理解させる。 ○各国の食料自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。	グループ討議 プレゼンテーション	保健 総合的な探究の時間
7月2週目 3週目	第4章「調理の基本」 1節 調理とおしさ 1項 調理の目的 2項 食べ物のおいしさ 2節 調理操作 1項 非加熱操作 2項 加熱操作 3項 加熱調理器具 3節 調味操作 1項 調味の目的 2項 調味をする段階	4	① 知識・技能 ○調理の目的とおしさにかかわる要因について理解している。 ○主な加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などに関わらせて理解できる。 ○日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。	学習ノート 定期考査Ⅲ 定期考査Ⅳ	○何のために調理するのかを理解させる。 ○おいしさに関わる条件を知り、調理に活かせるようにする。 ○だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ○調味に関する基本的な知識を習得させる。	グループ討議	
9月1週目	第2章「栄養素のはたらきと食事計画」 2節 ライフステージと栄養 1項 乳幼児期の栄養 2項 青少年期の栄養 3項 成人期の栄養 4項 高齢期の栄養	2	① 知識・技能 ○乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。	学習ノート 定期考査Ⅳ	○各自及び家族の生活について、健康増進のための食生活の視点から考えさせる。 ○栄養に偏りのある食事内容について改善計画を考えさせ、食生活を向上させる。	グループ討議	保健
9月2週目	3節 食事摂取基準と食事計画 1項 日本人の食事摂取基準 2項 食事計画	2	① 知識・技能 ○エネルギーや各栄養素の食事摂取基準について理解できる。	学習ノート 定期考査Ⅳ	○「食事摂取基準」の考え方を理解させる。 ○食事計画にあたっては、「食品群別摂取量のめやす」を利用できるようにする。	グループ討議	
9月3週目	第3章「食品の特・表示・安全」 1節 食品の特徴と性質 1項 穀類 2項 いも類 3項 砂糖 4項 豆類 5項 種実類 6項 野菜類 7項 果物類 8項 きのこと類 9項 海藻類 10項 魚介類 11項 肉類 12項 卵類 13項 牛乳・乳製品 14項 油脂類 15項 かんてん・ゼラチン 16項 嗜好食品 17項 調味料・香辛料 18項 加工食品と加工方法 19項 特別用途食品と保健機能食品	2	② 思考・判断・表現 ○食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ○食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。	学習ノート ワークシート 実験レポート	○穀類、いも類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等さまざまな食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ○これからの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。 ○上新粉と白玉粉、じゃがいも、卵、砂糖、かんてんとゼラチンなどの調理性を実験を通して学び、調理にいかせる。 ○加工食品の加工方法や種類について理解させる。 ○特定保健食品などについて把握させる。 ○実験：米粉の性質、小麦製品の膨化、じゃがいもの裏ごしと粘り、砂糖の加熱による変化、卵白の起泡性など	グループ討議 実験での協働作業	

9月4週日	第3章「食品の特徴・表示・安全」 2節 食品の生産と流通 1項 第一次産業の現状 2項 食品の生産 3項 食品の流通	2	① 知識・技能 ○調理を前提として、よりよい食品を見きわめ購入することができる。 ○食品を衛生的に取り扱うことができる。 ○食品の生産・流通・加工などの現状が理解できる。 ○食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。	学習ノート 定期考査Ⅳ	○多様で多量な輸入食材と日本の食料事情の現状と将来について考えさせる。 ○食料自給率の低下と日本の気候風土を生かした特色がある食材の生産、生産者と消費者が直接繋がる流通経路等、食料自給率と消費について考えさせる。 ○食品が多様化している社会的状況を考察させる。 ○食品の表示についての理解を深め、適切な選択をさせる。	ブレインストーミング (食品製造者と消費者)	保健 公民
	3節 食品の選択と表示 1項 多様化の背景と現状 2項 食品の選択 3項 食品の表示		② 思考・判断・表現 ○輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択ができる。 ○食品についての安全や衛生に配慮した適切な・選択ができる。 ○食の生産・流通・加工などの現状における課題について考えをまとめ、レポートを通して発表することができる。	学習ノート ワークシート	○冷凍食品、レトルト食品、調理済み惣菜等様々な食品の現状を知り、それらをそのように各自の食生活に採り入れていくかを考えさせる。 ○食中毒と衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようにさせる。 ○食品添加物の定義や種類について把握させる。		
	4節 食品の衛生と安全 1項 食中毒 2項 台所の衛生 3項 食品添加物		③ 主体的に学習に取り組む態度 ○食品の生産・流通・加工などの現状に関心を持とうとしている。 ○食品の表示・衛生に関心を持とうとしている。	学習ノート			
10月1週日	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動 1項 食育の意義と課題 2項 食育推進活動例	2	① 知識・技能 ○食育活動について情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ○米の特徴を理解できる。	学習ノート	○食育基本法の内容について理解させる。 ○食育が生活にどのように関わっているか考えさせる。 ○現在行われている食育について調べさせる。	○米飯官能鑑定し取得 ○つくばみらい市役所主催 米コンテスト (炊飯・利き米) ボランティアに参加	公民 総合的な探究の時間
	② 思考・判断・表現 ○食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。 ○試食したご飯の美味しさを伝えられる。		学習ノート ワークシート	○つくばみらい市役所 米コンテストに炊飯ボランティアとして参加するために米の品種と特徴、正しい米飯の炊き方を学ぶ。 ○学校家庭クラブ活動（スクールプロジェクト）			
	③ 主体的に学習に取り組む態度 ○食育の意義と活動に関心を持とうとしている。 ○正しい米の炊き方を実践できる。		学習ノート 課外活動レポート				
10月2週日 3週目	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 1項 日本料理の様式と献立 2項 西洋料理の様式と献立 3項 中華料理の様式と献立 2節テーブルコーディネート 1項 テーブルコーディネートとは 2項 テーブルコーディネートの基本 3項 和風のテーブルコーディネート 4項 洋風のテーブルコーディネート 5項 中華風テーブルコーディネート 6項 室内のテーブルコーディネート	4	① 知識・技能 ○様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 ○食器・盛り付け・テーブルクロス・証明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 ○目的に応じたテーブルコーディネートができる。	学習ノート フラワーアレンジメント テーブルコーディネートの小物製作	○日本料理、西洋料理、中華料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる。 ○日本料理の献立の違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる。 ○西洋料理の形式による違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる。 ○地域によって異なる中華料理の特徴を知り、サービスやマナーについて理解させる。	実験での協働作業	総合的な探究の時間
	② 思考・判断・表現 ○食器・盛り付け・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。		学習ノート ワークシート	○和風・洋風・中華風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えさせたり、実際にコーディネートを実践させる。			
	③ 主体的に学習に取り組む態度 ○日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持とうとしている。 ○季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。		学習ノート	○コーディネートに必要なランチョンマットや箸置き等の小物製作をさせる。			
10月4週日 ～ 1月4週日	第6章「フードデザイン実習」 1節 献立作成 3項 行事食 4項 テーマ設定と調理実習災害食、敬老の日、クリスマス、正月、桃の節句、こどもの日 調理実習 実習7 日本料理② 実習8 西洋料理② 実習9 中華料理② 実習10 お弁当 実習11 病人食 実習12 災害食実 習13 敬老の日 実習14 クリスマス料理 実習15 おせち料理	28	① 知識・技能 ○基礎的な調理題材について計画し、調理することができる。 ○食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法などの一連の流れを計画し実践ができる。 ○具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 ○日本料理、西洋料理及び中国料理の基本的なテーブルセッティング、テーマにふさわしいテーブルコーディネートおよびサービスの方法を理解できる。	学習ノート 調理実習の記録 定期考査Ⅳ	○栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ○これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることができるようにする。 ○基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。 ○米および小麦粉を使った諸国の料理を知り、それぞれの国の食文化を理解するとともに、料理がつくれる。 ○敬老の日やクリスマス料理で、料理をつくる喜びやつくった料理を皆で食べる喜びを知る。	調理実習の係決め 調理実習における協働作業	地理総合 国際理解 総合的な探究の時間
	② 思考・判断・表現 ○具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ○作成した献立に適した食品を選択することができる。 ○食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境を判断することができる。		学習ノート	○おせち料理実習で、料理ができることはもちろん、日本の伝統行事の継承や和風料理を伝承する能力を培う。あわせて無形文化遺産に登録された和食の特徴を知る。 ○和風、洋風、中国風等の料理を引き立てるようなテーブルセッティングができる。 ○来客接待料理にふさわしい料理の要点を理解し、能率的に料理がつくれる。			
	③ 主体的に学習に取り組む態度 ○調理実習の記録をまとめることができる。 ○班員と協力して時間内に準備・調理・後片付け・試食をしようとしている。 ○食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。		学習ノート ワークシート 定期考査Ⅳ				
指導時間数の計		70					